

片、石核のほかナイフ形石器等を組成する。第8ブロックの中心をなす遺物集中部である。石器はナイフ形石器1点、二次加工剥片1点、石核2点が抽出される。

298はナイフ形石器である。主軸長は20mmに満たず極めて小型であるが、基部に二次加工が認められる。299は二次加工剥片とした。素材の頭部に僅かながら剥離痕が観察される。300,301は石核である。いずれも先行剥離面を打面にして剥片剥離を行っているが素材形状は不明である。300が石核を転回して剥離を行う場合があるのに対し、301はほんだけ面を固定して剥片剥離を行っている。

#### 第8ブロック第33遺物集中部（第143図；第22表）

第32遺物集中部に隣接する位置に形成され、碎片を含む遺物集中部が検出される。玉體II類を素材とする石核2点のは

か、頁岩III類を素材とするナイフ形石器1点が抽出される。

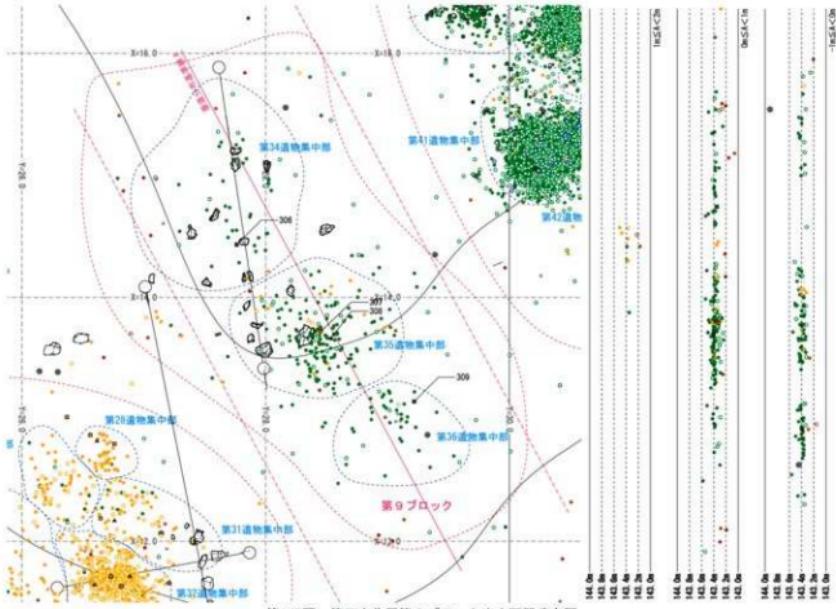
302はナイフ形石器である。基部は欠損しているが、縦長の剥片を素材とし正面有側縁に加工を加えて製品としている。実測後、第32遺物集中部の剥片と接合し、完形状態に復元された（接合資料No88）。303,304は石核である。この2点も実測後接合した。亀甲状を呈する求心剥離型の石核である。

#### 第8ブロック遺物集中部外（144図；第22表）

石核1点を抽出した。305は厚さ15mm程度の剥片を素材とする石核である。周縁部から求心状に剥離されており、時折打面を反転させて剥離を行っている。反転時の剥離は石核周縁部を中心にするものが多く、石核整形的な意味合いが強いものとみられる。

第22表 第III文化層第8ブロック出土石器観察表

発見No	回No	到上No	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	性別	全幅L2	中幅L3	E幅L1	E幅L2	最大厚(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	参考
140	290	35999	12.822	26.615	143.326	908	C28	■	ナイフ形石器	-	OC2	-	24.9	11.4	4.1	0.73	混合資料Hu02_H3
	294	34964	12.799	26.759	143.340	908	C28	■	石核	-	OC2	-	17.6	21.6	21.9	5.59	混合資料Hu04_C1
	296	33084	12.872	26.561	143.514	908	C28	■	石核	-	OC2	-	15.4	22.9	16.1	5.5	混合資料Hu04_A1
141	296	32101	11.836	25.627	143.366	908	C30	■	石核	-	SH3	-	40.3	12.6	6.8	1.94	-
	297	34964	12.190	26.645	143.331	908	C31	■	石核	-	CC2	-	19.4	28.7	21.4	6.61	混合資料Hu05_E1
142	296	46199	11.843	26.595	143.255	908	C32	■	ナイフ形石器	-	CC2	-	19.4	7.4	5.9	0.45	S0516_C1
	299	47808	11.712	26.685	143.277	908	C32	■	二次加工剥片	-	CC2	-	15	10.4	5.5	0.36	-
	300	36622	11.834	26.815	143.293	908	C32	■	石核	-	CC2	-	22.8	28.5	14.6	9.2	-
143	301	45169	11.713	26.730	143.274	908	C32	■	石核	-	CC2	-	21.4	19.7	21	5.25	S0520_B1
	303	34913	11.238	26.630	143.309	908	C33	■	ナイフ形石器	-	SH3	-	22.1	8.1	3.4	0.46	混合資料Hu05_A2
	304	56209	10.891	26.683	143.271	908	C33	■	石核	-	CC2	-	16.9	21.4	20.7	5.76	混合資料Hu05_C1
144	305	34960	13.019	26.368	143.304	908	-	■	EM	-	CC2	-	18.4	29.5	25.2	8.09	混合資料Hu05_C2
										-	CC2	-	39.2	33.3	16.8	16.44	混合資料Hu07_B1



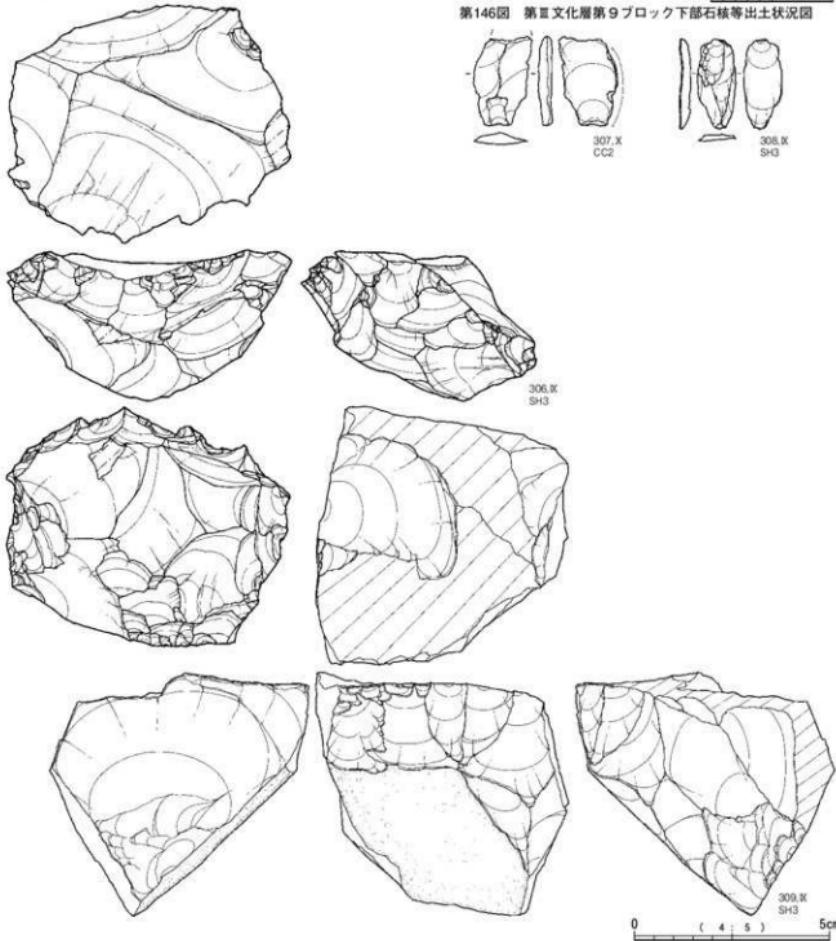
第145図 第III文化層第9ブロック出土石器分布図

第9ブロック（第145図）

第8ブロックと第10ブロックの中間に形成された比較的密度の低いブロックである。頁岩Ⅲ類を素材主体に、玉髓Ⅱ類等が客体的に組成される。緩慢なものを持めると、概ね3か所の遺物集中部を認識できる。周辺では、比較的大型の粗質頁岩繰の集中が検出されている（第146図）。

第9ブロック第34遺物集中部（第147図；第23表）

第9ブロックの端に形成された緩慢な石器集中部である。頁岩を素材とする剥片の分布がみられるが、分布密度は希薄である。石核1点が抽出される。



第147図 第III文化層第9ブロック出土石器実測図

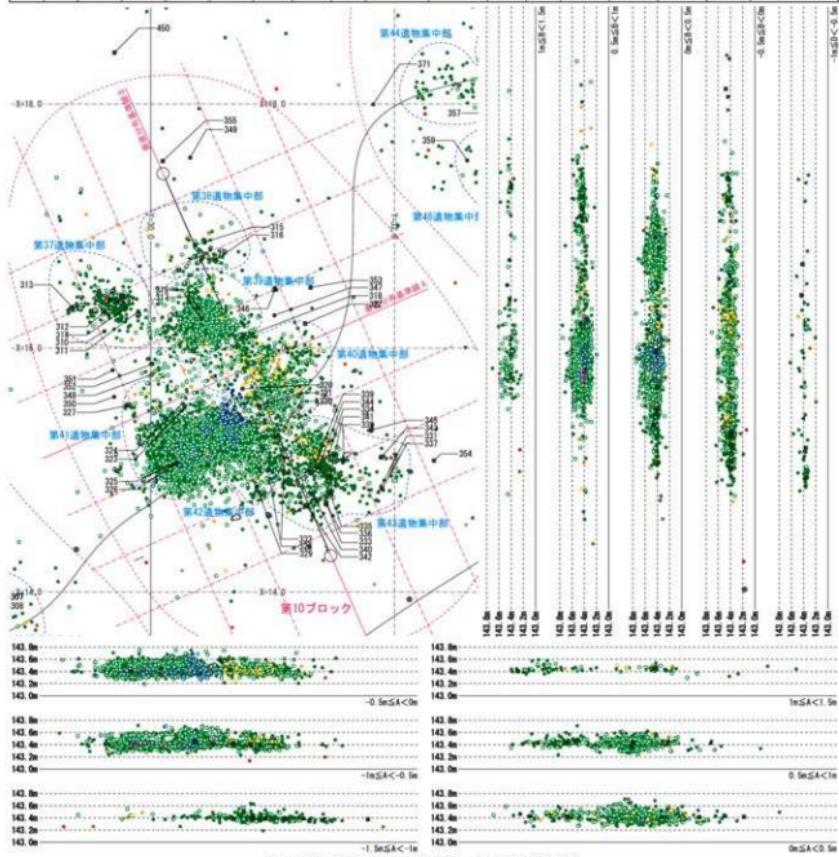
306は剥片素材の大型の石核である。先行する平坦な剥離面を打面として目的的剥片の剥離が行われている。接合資料No93に属する資料であるが、目的的剥片の剥離はあまり進行しておらず、比較的大きな状態で放棄されている。

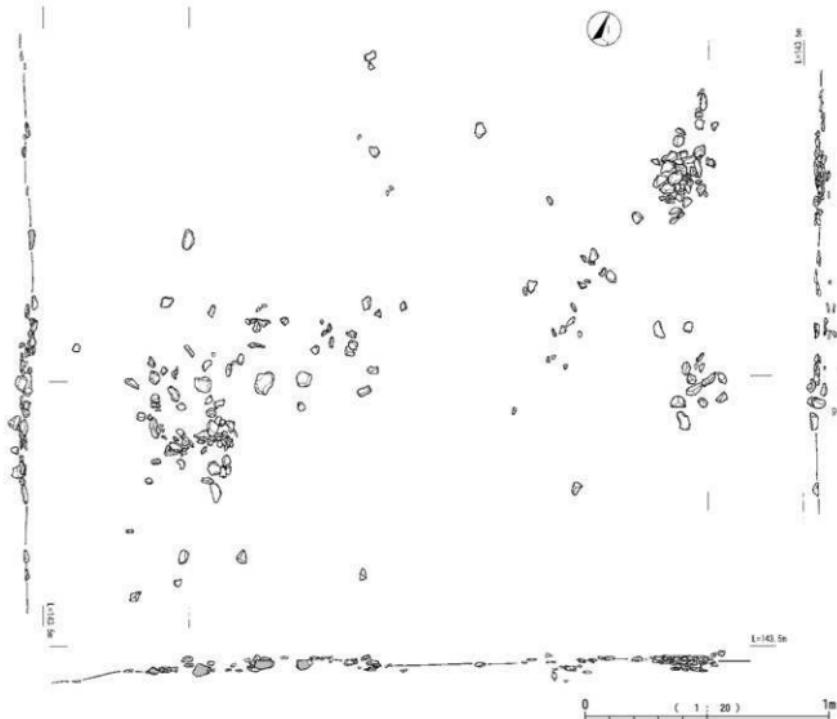
#### 第9ブロック第35遺物集中部（第147図：第23表）

第9ブロックの中央部に位置し、最も多くの剥片類が分布する集中部である。頁岩Ⅲ類を主体とするが、玉髓Ⅱ類も客体的に組成される。微細剥離痕剥片1点が抽出された他、剥片1点を掲載する。

307は玉髓Ⅱ類を素材とする剥片である。風化が激しく緑第307 第Ⅲ文化層第9ブロック出土石器観察表

発見No	深度	地表No	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	部位	分類I,2	分類I,3	EH1	石核,2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	参考
147	306	35952	14.432	27.762	143.352	809	C34	X	石核		SH1	37.6	70.6	61.1	149.31	緑色岩He93.B1	
	307	45221	13.720	28.451	143.328	809	C35	X	微細剥離痕剥片		OC2	-	22.4	14.8	3.9	0.57	SQ910.A2
	308	26209	13.683	28.505	143.413	809	C36	X	剥離		EH2	-	22.6	9.8	3.3	0.48	
	309	52055	13.146	29.218	143.392	809	C36	X	剥離		SH3	-	60.3	63	66.2	273.94	SG043.B1





第149図 第Ⅲ文化層第10ブロック下部石核等出土状況図

#### 第10ブロック（第148図）

B-4区に形成された頁岩を主体とする比較的大規模なブロック3基のうち、最も北側に形成されたブロックである。石材は頁岩Ⅲ類が主体を占め玉髓Ⅱ類と黒曜石Ⅰ類が客体的に組成される。ブロックの下部では石核等が集中して検出された（第149図）。集中部は合計6か所を認定したが、全ての集中部に碎片の集中もしくは比較的大型の剥片や石核等の集中状況が看取される。

#### 第10ブロック第37遺物集中部（第150図；第24表）

第10ブロックの中では東側にやや離れた位置に形成されており、径40cm程度の範囲に頁岩Ⅲ類を素材とする剥片類の密集部が形成されている。下部には、比較的大型の剥片や石核等が集中した状態で検出された。石核3点を抽出したほか、剥片2点を掲載する。

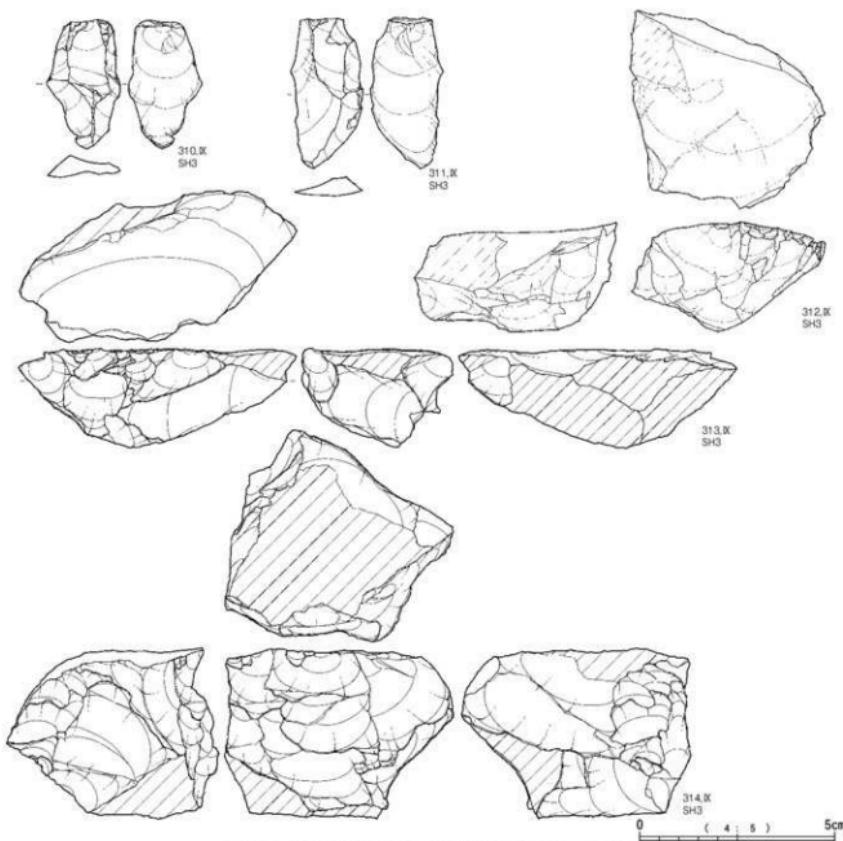
312,313は剥片素材の石核である。いずれも主要剥離面を打面として312は素材の尾部側、313は素材の頭部側から剥片剥離が進行している。いずれも剥離の継続は可能な資料とみられるが石核形状を大きく変えるほど剥離は進行せず。石核

が矮小化する前に石核を放棄している。314は分割雕を素材とする石核である。節理面をそのまま打面として目的的剥片の剥離を行っている。石核を転回しながら剥離を行っているが明確な作業面が形成されるのは正面のみである。比較的大きな状態でのまま放棄されている。

#### 第10ブロック第38遺物集中部（第151図；第24表）

第37遺物集中部と同様に、第10ブロックでは東側の縁辺に形成された集中部である。剥片類の構成点数は少なく、ほとんどが比較的大型の剥片や石核で構成される。碎片や剥片等の出土が少ないのでこれらの大型品が集積された状況も想定され、注意が必要である。石核2点を抽出した。

315は分割雕を素材とする石核である。打面を転回しながら様々な角度から剥片剥離を行っている。最終段階では求心状剥離に近い剥離形態となり、残核形状も亀甲状に近い。316は節理面に沿って分割された板状雕を素材とする石核である。ほぼ単設打面に近い状態で剥離が進行し、そのまま放棄されている。



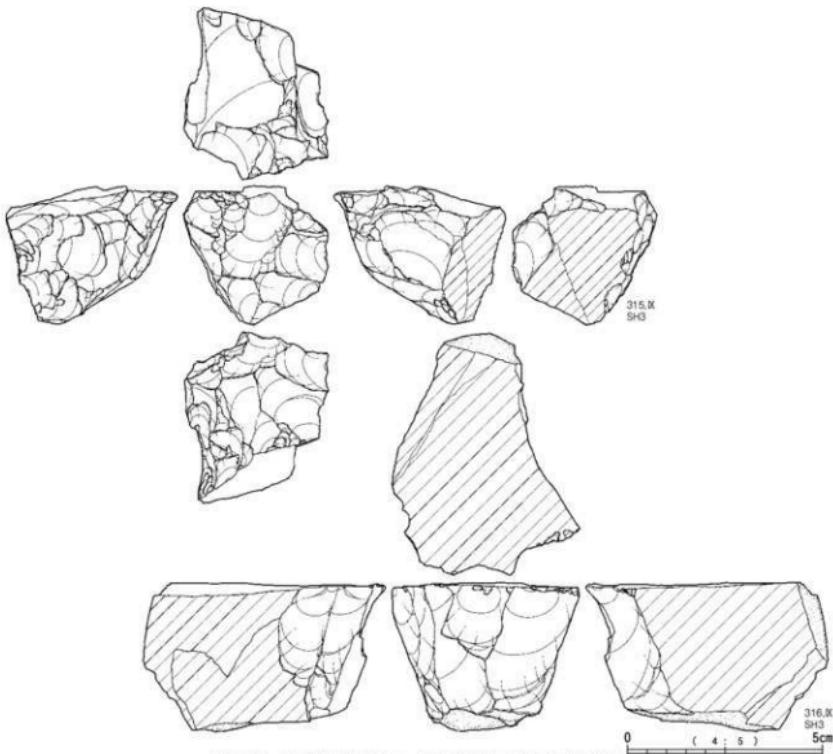
第150図 第Ⅲ文化層第10ブロック第39遺物集中部出土石器実測図

第10ブロック第39遺物集中部 (第152図: 第24表)

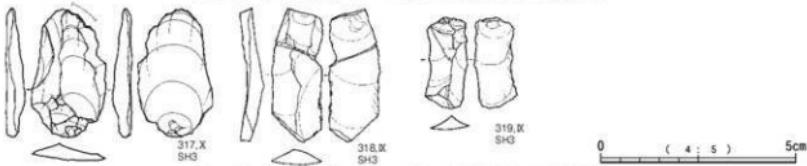
第38遺物集中部及び第38遺物集中部に隣接する位置に形成された集中部である。径50cm程の範囲に非常に多くの碎片や剥片が集中して出土している。下部にはやや大きめの剥片等が出土しているが、他の集中部と比較しやや少ない状況である。石器は微細剝離剥片1点が抽出されたほか、剥片2点を掲載する。

第24表 第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器観察表 (1)

発見No.	深度(m)	取上げNo.	X座標	Y座標	Z座標	プロット	集中部	部位	寸法L2	寸法L3	石種L1	石種L2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	備考
150	310	44086	16.137	29.620	143.436	B10	C37	X 剥片			SH3	-	32	18.5	6.7	2.88	混合資料He01_B15
	311	37904	16.301	29.598	143.478	B10	C37	X 剥片			SH3	-	37.5	18.3	5.4	2.94	-
	312	49705	16.424	29.769	143.430	B10	C37	X 剥片			SH3	-	28	49.8	50.9	65.05	混合資料He02_H1
	313	49679	16.331	29.360	143.405	B10	C37	X 剥片			SH3	-	24.9	69	38.9	59.74	SG23_F1
	314	49702	16.322	29.793	143.423	B10	C37	X 剥片			SH3	-	42.3	56.9	54.6	140.48	混合資料He06_J1
151	315	4929	16.843	30.363	143.450	B10	C36	X 剥片			SH3	-	34.7	36.2	44.2	49.1	混合資料He06_P1
	316	49732	16.722	30.532	143.432	B10	C38	X 剥片			SH3	-	37.1	46.5	62.2	115.14	混合資料He01_C1
152	317	57938	16.244	30.416	143.356	B10	C39	X 微細剝離剥片			SH3	-	31.9	18.7	5.3	1.97	混合資料He01_L3
	318	46898	16.097	30.753	143.411	B10	C39	X 剥片			SH3	-	33.1	12.9	6.4	1.74	-
	319	49643	16.329	30.388	143.439	B10	C39	X 剥片			SH3	-	22.7	19.9	4.2	0.73	-



第151図 第Ⅲ文化層第10ブロック第38遺物集中部出土石器実測図



第152図 第Ⅲ文化層第10ブロック第39遺物集中部出土石器実測図

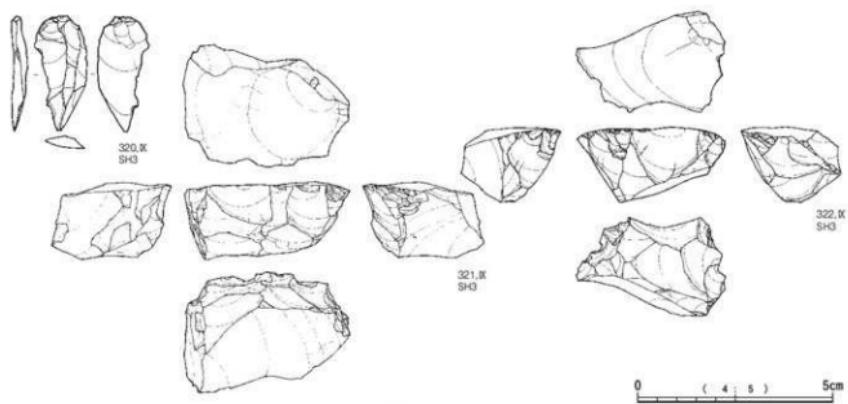
片集中部が形成されているほかはやや散漫な分布状態を示す。頁岩Ⅲ類を主体とするが、玉髄Ⅱ類を客的に組成する。石器は、微細剥離痕剥片1点と石核2点が抽出された。

320は微細剥離痕剥片である。尾付部近に僅かに微細剥離がみられる。321,322は剥片素材の石核である。素材剥片自体がやや小型のものが選択されており、石核自体も比較的小型である。いずれも素材の主要剥離面の右側縁方向から剥離が進められており、専ら素材の主要剥離面を打面として利用している。2点とも打面や作業面の反転は行われず同じような形状やサイズで放棄されており、322の方が剥離角がやや

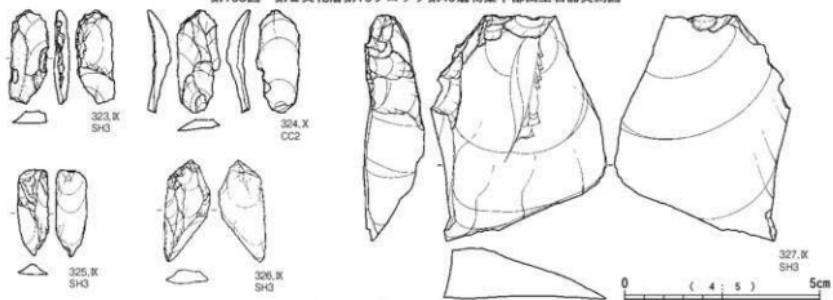
深いことを除けば、両者の石核形態はよく類似している。

#### 第10ブロック第41遺物集中部（第154図；第25表）

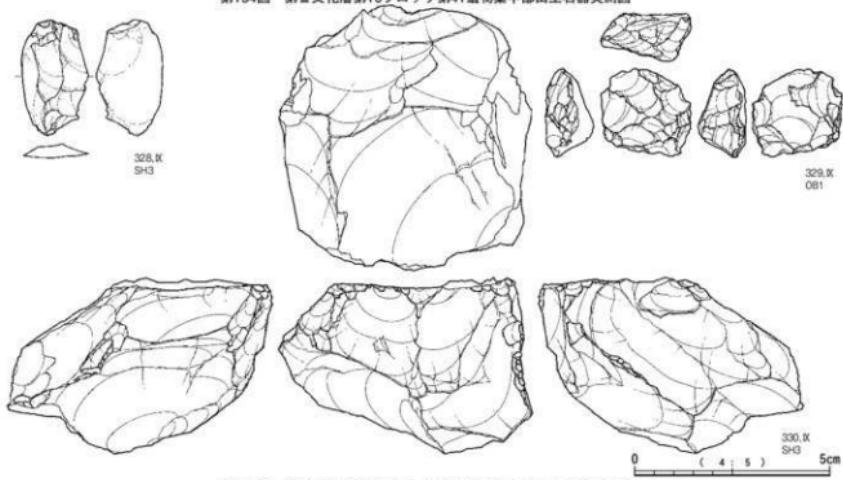
第10ブロックでは最も多くの剥片類を含む集中部である。隣接する第42遺物集中部と接しているが、剥片の分布状況から2分離が可能である。ほぼ頁岩Ⅲ類のみで組成されるが、剥片レベルで分布図を観察すると、さらに集中部が細分できる可能性もある。石器は、ナイフ形石器2点が抽出された。この他、小型の縦長剥片2点と大型の剥片1点を掲載する。323は頁岩を素材とするナイフ形石器である。石核の枝線



第153図 第3文化層第10ブロック第40遺物集中部出土石器実測図



第154図 第3文化層第10ブロック第41遺物集中部出土石器実測図



第155図 第3文化層第10ブロック第42遺物集中部出土石器実測図

付近で横長に剥離した剥片を素材にしており、素材の形状をそのまま利用して簡単な二次加工を加え製品としている。使用に関連するものかどうかは不明であるが、欠損部以外は縦線が顕著に摩滅している。324は玉韁II類を素材とするナイフ形石器である。先端部付近に僅かに二次加工が施されている。325,326は頁岩III類を素材とする小型の擬長剝片である。327は大型の剝片である。接合資料No99の一節で数枚の剥離が背面側から施されており、石核素材として搬入された可能性のある資料である。

#### 第10ブロック第42遺物集中部（第155図；第25表）

第41遺物集中部に隣接する集中部で、第41遺物集中部と同様に碎片や剝片類が密集する集中部である。碎片及び剝片の密集部は頁岩III類を素材とするが、剝片分布状況をみるとさらに細分できそうである。また、第40遺物集中部に隣接する位置には、径40cm程の範囲で黒曜石I類の集中部が形成されている。集中部の下部には、主に第43遺物集中部側に、比較的大型の剝片類や石核等が検出されている。ただし、この比較的大型の剝片や石核等の分布は第43遺物集中部に連続しており、この範囲の頁岩III類を素材とする剝片等については第43遺物集中部に帰属する可能性もある。この点に関してはブロック形成過程の理解とも関連するのでここでは平面分布による便宜的な区分に止め、改めて検討を行うこととする。

石器は、微細剝離痕剝片1点、石核2点が抽出されている。黒曜石II類を素材とする石核以外は、上記の理由で第43遺物集中部に帰属する可能性もある。

328は微細剝離痕剝片である。正面尾部付近に僅かに微細剝離痕が観察される。329は黒曜石I類を素材とする石核である。打面と作業面を反対せながら求心的に剥離が進められており、石核が非常に矮小化するまで剥離が進んでいる。330は頁岩素材の大型の石核である。周縁からやや大きめの剥離によって石核を円盤状に整形しているが目的的剝片を通過して剥離した跡形ではなく、剥離段階に移行する

第25表 第三文化層第10ブロック出土石器観察表（2）

件目	IRNo.	直上No.	X座標	Y座標	Z座標	フローラ	断面形	重さ	分類	分類	EHL1	EHL2	最大(高さmm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	備考
153	320	30041	15.665	30.733	143.596	B10	C40	X	微細剝離痕剝片		S93	-	28.7	19	4.3	0.99	
	321	40762	15.532	30.887	143.430	B10	C40	X	石核		S93	-	20.2	42.5	31.5	26.58	接合資料No99_7.1
	322	23044	16.199	31.267	143.435	B10	C40	X	石核		S93	-	18.9	36.8	26	14.87	5G178.81
154	323	36517	15.508	30.276	143.461	B10	C41	X	ナイフ形石器		S93	-	23.6	10	4.3	0.82	
	324	55804	15.543	30.299	143.359	B10	C41	X	ナイフ形石器		CC2	-	25.6	11	6.3	0.69	
	325	54762	15.063	30.209	143.392	B10	C41	X	剝片		S93	-	21.8	8.1	3.4	0.49	
155	326	53222	15.057	30.211	143.401	B10	C41	X	剝片		S93	-	25.4	11.8	4.5	1.11	
	327	49737	15.539	29.997	143.423	B10	C41	X	剝片		S93	-	56.1	43.7	15.7	35.05	接合資料No99_7.1
	328	50094	14.996	30.965	143.415	B10	C42	X	微細剝離痕剝片		S93	-	28.9	16.7	4.3	2.05	
156	329	37202	14.863	30.669	143.459	B10	C42	X	石核		081	-	22	22.5	12.6	5.13	接合資料No97_C1
	330	49794	15.279	31.033	143.400	B10	C42	X	石核		S93	-	43.8	63.2	66	186.39	接合資料No99_1
	331	40400	14.818	31.867	143.392	B10	C43	X	ナイフ形石器		S93	-	31.2	13.2	6.9	2.14	接合資料No99_B1
157	332	50094	15.102	31.095	143.414	B10	C43	X	微細剝離痕剝片		S93	-	36.8	13.8	4.4	1.17	
	333	38068	14.739	31.441	143.419	B10	C43	X	剝片		S93	-	46.8	31.8	10.2	10.56	接合資料No99_h20
	334	35670	15.109	31.456	143.520	B10	C43	X	調整剝片		CC2	-	21.8	25.3	22.4	2.54	接合資料No102_B1
158	335	49783	14.807	31.475	143.379	B10	C43	X	石核		S93	-	79	44.1	29.3	86.36	接合資料No99_Z1
	336	49781	14.728	31.442	143.382	B10	C43	X	石核		S93	-	18.6	37.5	38.8	25.44	接合資料No99_A1
	337	49821	14.847	31.900	143.348	B10	C43	X	石核		S93	-	27.6	34.5	27.4	23.04	5G163. C1
159	338	49805	15.078	31.583	143.387	B10	C43	X	石核		S93	-	27.6	46.8	27.0	31.94	接合資料No99_X1
	339	49788	14.976	31.317	143.402	B10	C43	X	石核		S93	-	19.6	37.9	46.4	29.44	
	340	36884	14.803	31.329	143.497	B10	C43	X	石核		S93	-	31.3	35.6	39.4	31.51	接合資料No99_B1
160	341	49829	14.936	31.465	143.387	B10	C43	X	石核		S93	-	24	45.9	33.9	30.88	接合資料No99_G1
	342	49775	14.709	31.277	143.362	B10	C43	X	石核		S93	-	29	52.9	49.6	83.61	接合資料No99_L1
	343	49824	15.109	31.896	143.364	B10	C43	X	石核		S93	-	36.1	60.4	45.5	79.38	接合資料No100_F1
161	344	49789	15.022	31.380	143.385	B10	C43	X	石核		S93	-	57	57.4	34.2	124.84	接合資料No99_E3

前に整形状態で遺棄された石核素材の可能性が高い。

#### 第10ブロック第43遺物集中部（第156図～第158図；第25表）

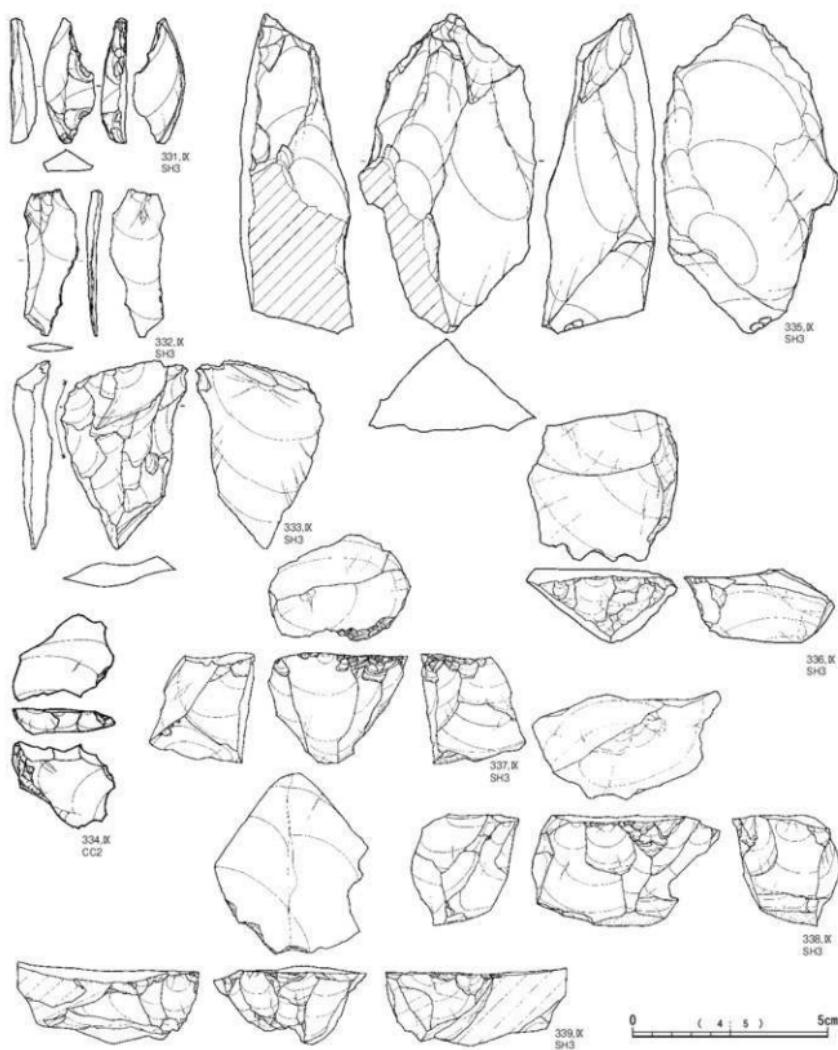
第10ブロックの縁辺に形成された集中部である。剥片が少なく剥片が多いのが特徴で、下部からは比較的大型の剥片や石核が集中して出土した。ナイフ形石器1点、搔器1点、微細剝離痕剝片1点のほか調整剝片1点、石核9点が抽出された。石核の点数が非常に多いのが特徴である。この他に剥片1点を掲載する。

331はナイフ形石器である。やや厚手の素材を使用し、主に正面右側縁の先端部付近に頗るな二次加工が施されている。332は微細剝離痕剝片である。正面右側縁を中心に、連續的な微細剝離痕が數か所確認できる。333は剥片である。主軸長が45mm程のやや大きめの資料である。334は調整剝片である。玉韁II類を素材とする。

335は搔器とみられる。縦長に剥離された大型の剥片を素材とし、先端部付近に主要剝離面側から簡単な二次加工を施している。明瞭な刃部形成がなされているわけではないが、縁辺の一部に細かい剥離が連續的に施されているため搔器と判断した。

336～342は剥片素材の石核である。いずれも素材の主要剝離面側から目的的剝片の剥離が行われている。このうち337と338は素材の尾部側から剥離が進行し、ほぼ極限状態まで剥離が進んでいる。

一方、336,339はあまり剥離が進行することなくそのまま放棄されている。336,338は接合資料No99に含まれる資料である。340も剥片素材の石核であるが、比較的薄い素材のため、石核形状がやや扁平な形状を呈する。打面と作業面を反転させながらやや求心的に剥離が進められているが、剥離された剥片はやや幅広の形状を呈するものである。石核は比較的小型で、ほぼ極限に近い状態まで剥離が行われ放棄されている。341も剥片素材の石核である。素材の縁辺から打面を反転しながら剥片剥離を行っているが、340と同様にやや幅



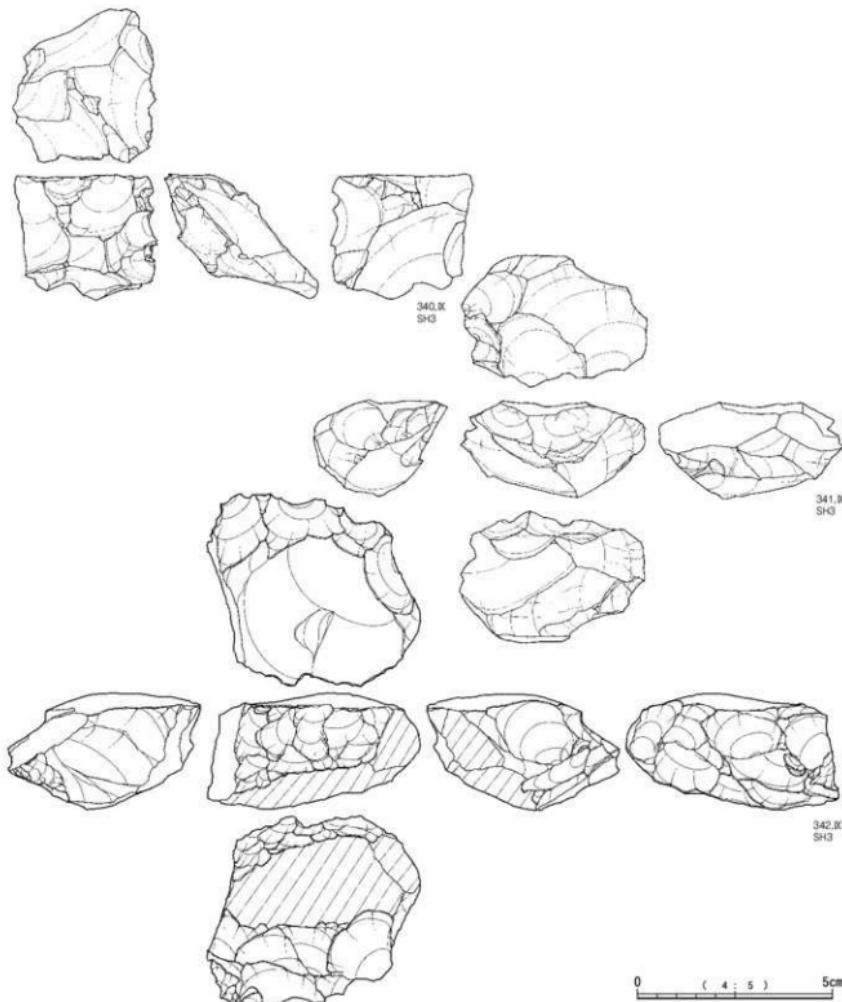
第156図 第III文化層第10ブロック第43遺物集中部出土石器実測図(1)

広い剥片が剥離されているのが特徴である。342も剥片素材の石核である。ただし石核のサイズが比較的大きく、残された剥離も周縁部にとどまり整形剥離に近いことから、目的的剥片の剥離段階に移行する前の石核整形段階で放棄された可能性のある資料である。

343は節理面に沿って分割された分割礫を素材とするもの

である。分割面を打面として順次打点を移動させながら剥片剥離を行っているが石核が矮小化する前に石核を放棄している。

344は大型の剥片である。分厚く石核素材となる可能性もあるためここで図示する。整形剥離等は観察されない。



第157図 第Ⅲ文化層第10ブロック第43遺物集中部出土石器実測図(2)

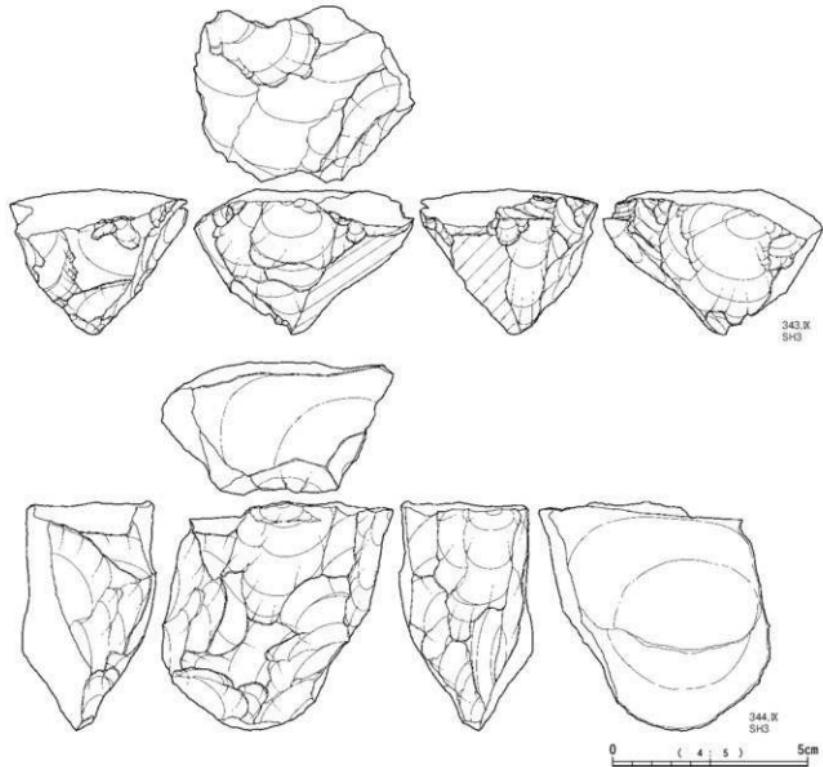
第10ブロック遺物集中部外(第159図:第26表)

搔器2点、微細剥離痕剥片1点、石核4点を抽出した。この他に剥片4点を掲載する。

345は搔器である。素材剥片の背面側から腹面に向かって頭部を除去するように二次加工を施している。346も搔器で、素材剥片の一部に細かな加工を施して刃部形成を行っている。347は微細剥離痕剥片である。正面左側縁の先端部

付近に微細剥離が観察される。348~351は剥片である。348は玉髓II類、349はやや白みがかった褐色の頁岩を素材とする。

352~355は石核である。352.353.355は剥片素材、354は分割繰素材である。352.353は素材の主要剥離面を打面として目的的剥片を剥離し、石核が矮小化するまで剥離を進めている。354も節理面を打面として剥片剥離を進めている。これ



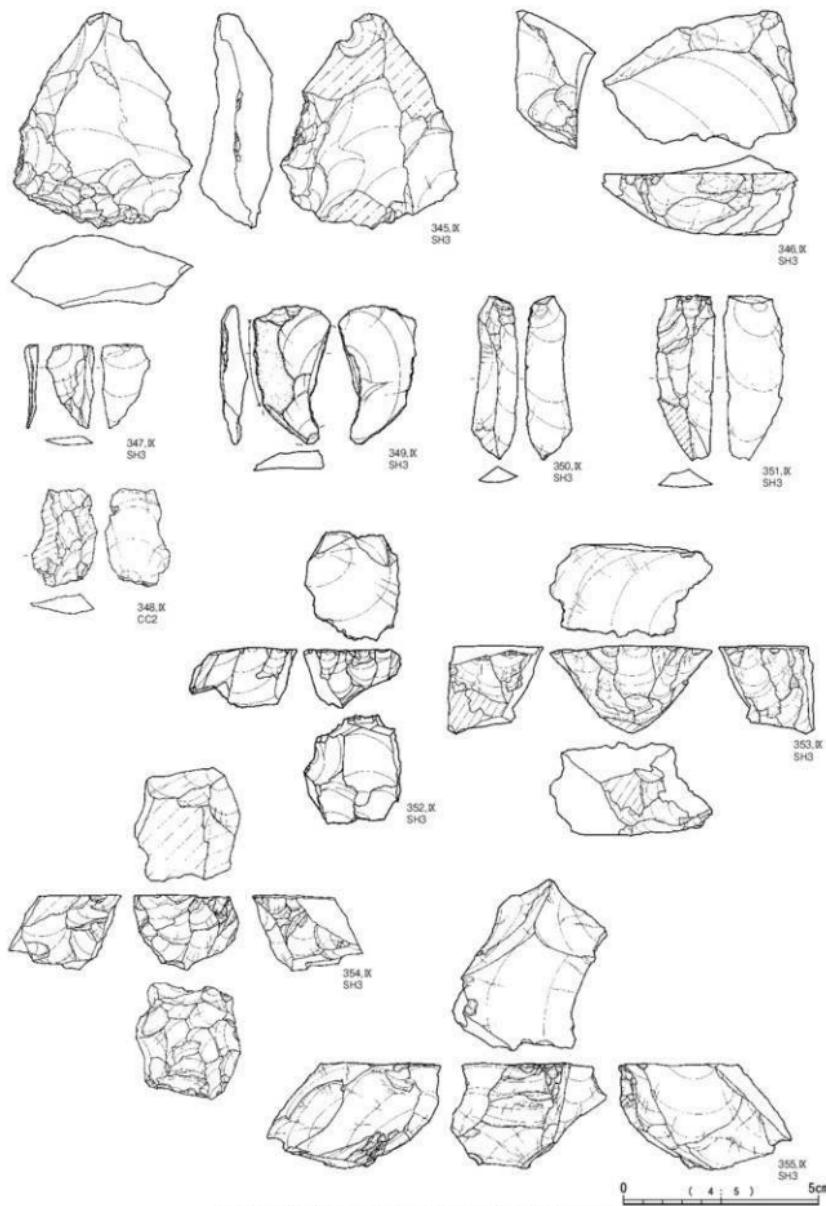
第158図 第Ⅲ文化層第10ブロック第43遺物集中部出土石器実測図(3)

らは石核が比較的小型ではあるが、最終段階においても打面の反転を行わず、最後まで打面を主要剥離面に固定して剥離を進めるのが特徴である。355も平坦な先行剥離面を打面として剥片剥離を行う石核である。352~354と比べると一回り大きな資料である。

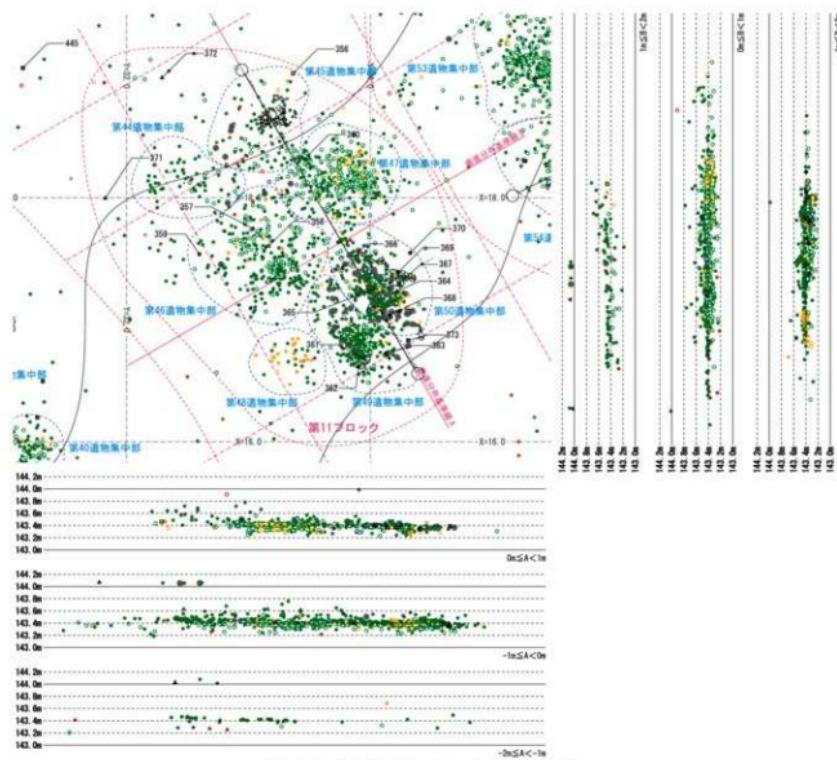
が、打面直下に潰れが観察され適切な作業面角度を維持できなくなったために放棄された可能性が高い。この資料に関しては目的的剥片の剥離は数枚のみでそのまま放棄されている。

第26表 第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器観察表(3)

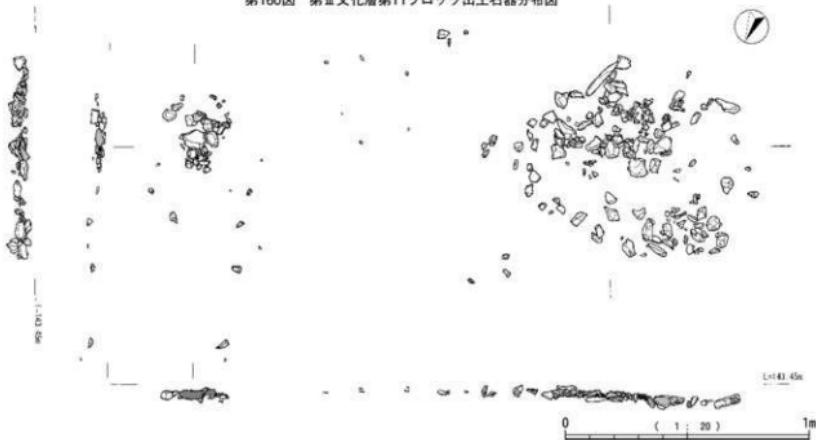
標印No.	登記No.	厚さ(mm)	X幅(mm)	Y幅(mm)	Z幅(mm)	ブロック	集中部	断面	分類L2	分類L3	石核L1	石核L2	最大厚(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	参考
345	49625	15.327	31.804	143.419	810	-	X	複合	-	-	SH3	-	53.7	44.3	18.9	37.51 混合資料He04.J1
346	49734	16.478	31.019	143.420	810	-	X	複合	-	-	SH3	-	19.9	48.5	35.5	29.6 混合資料He03.C5
347	44857	16.268	31.015	143.419	810	-	X	複合剥離面剥片	-	-	SH3	-	21	12.3	3.7	0.54
348	40677	15.784	30.013	143.450	810	-	X	剥片	-	-	CC2	-	24.5	16.3	5.6	1.41
349	41557	17.560	30.324	143.442	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	34.5	19.5	7.7	3.19
350	40704	15.600	29.700	143.464	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	40.7	11.8	5.3	1.84 混合資料He04.A8
351	44627	15.819	29.668	143.407	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	40.9	15.7	6.7	3.37 混合資料He04.A5
352	49618	15.870	30.013	143.416	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	14.8	24.3	28.2	9.06
353	23042	16.496	31.312	143.418	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	21.9	40.5	24.2	22.19 混合資料He03.B1
354	40003	15.077	32.323	143.377	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	18.9	26.1	29.3	15.01 混合資料He04.O1
355	41556	17.532	30.090	143.477	810	-	X	剥片	-	-	SH3	-	26.3	38.7	43.9	38.39 混合資料He03.G1



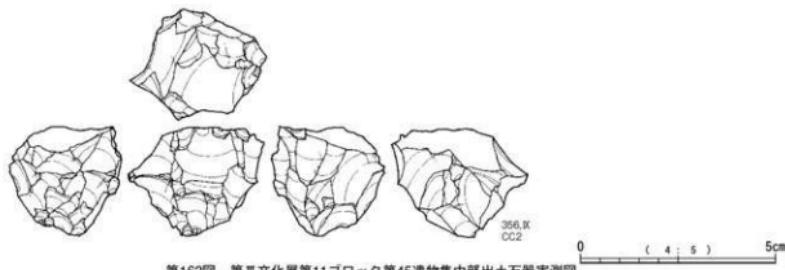
第159図 第Ⅲ文化層第10ブロック遺物集中部外出土石器実測図



第160図 第III文化層第11ブロック出土石器分布図



第161図 第III文化層第11ブロック下部石核等出土石器実測図



第162図 第III文化層第11ブロック第45遺物集中部出土石器実測図



第163図 第III文化層第11ブロック第46遺物集中部出土石器実測図



第164図 第III文化層第11ブロック第47遺物集中部出土石器実測図

#### 第11ブロック (第160図)

第11ブロックは第10ブロックと第12ブロックの中間に形成される。遺物量はさほど多くはないが、大型の剥片類や石核、礫等が密集している(第161図)。特に第50遺物集中部付近には被熱破壊礫が集中しており、礫群が存在した可能性が高い。

遺物集中部は、合計7か所認定した。

#### 第11ブロック第44遺物集中部

第11ブロックの縁辺に形成された緩慢な遺物集中部である。頁岩Ⅲ類を主体とし、剥片類が分布するが石核やナイフ形石器等は抽出されていない。

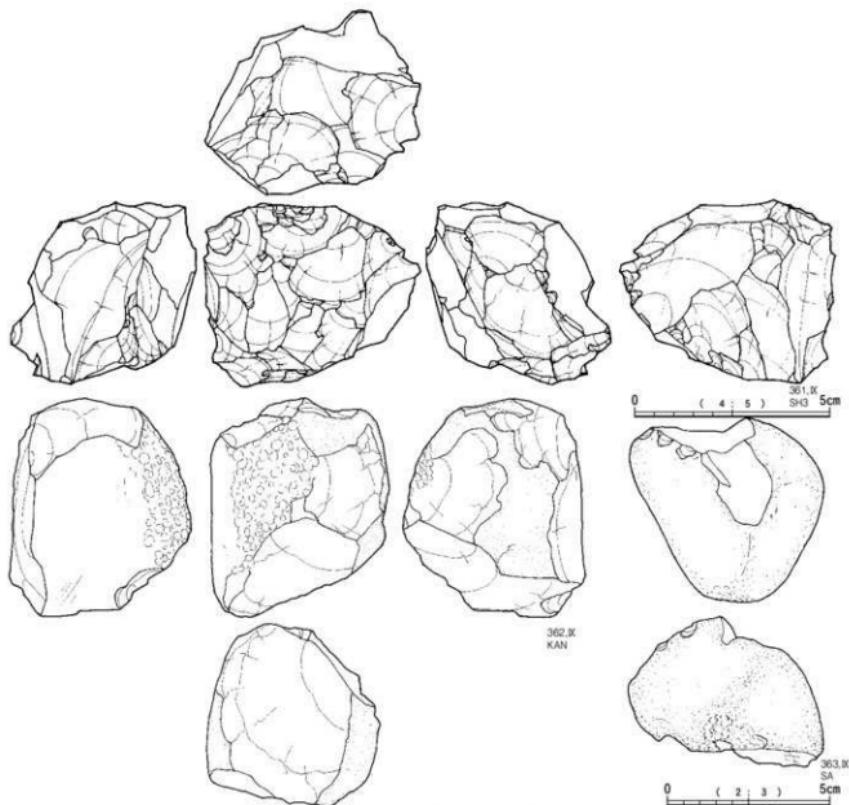
#### 第11ブロック第45遺物集中部 (第162図; 第27表)

第45遺物集中部に隣接し、頁岩Ⅲ類を素材とする緩慢な遺物集中部が形成されている。下部には比較的大型の剥片や石核等が径30cmほどの範囲に密集した状態で検出された。石核1点を抽出した。

356は玉髓Ⅱ類を素材とするもので、打面転回を行ひながら、平坦な先行剥離面を主要打面として剥片剥離を行っている。極限まで剥離が進行した状態で放棄されており、作業面上に観察される剥離面の主軸長は15mm程度である。

#### 第27表 第III文化層第11ブロック出土石器観察表 (1)

件数	地番	東上緯	X座標	Y座標	石種	ブロック	集中部	位置	今割(2)	分類(3)	EHL1	EHL2	最大厚( mm)	最大幅( mm)	重量(g)	備考
162	356	22944	19.018	33.306	143.460	BI1	CC2	北	石核	CC2	-	27.2	34	28.7	20.28	総合資料No167.C1
	357	23022	17.746	33.039	143.421	BI1	C46	北	ナイフ形石器	SH3	-	19.9	8.5	4.3	0.46	
163	358	23069	17.604	33.166	143.411	BI1	C46	北	ナイフ形石器	CC2	-	21	10.1	3.5	0.66	
	359	21715	17.537	32.987	143.417	BI1	C46	北	微細剥離痕剥片	SH3	-	25.9	15.8	8.3	2.36	
164	360	21806	18.317	30.469	143.513	BI1	C47	北	剥片	SH3	-	19.7	9.9	3.5	0.53	



第165図 第III文化層第11ブロック第49遺物集中部出土石器実測図

360は小型の縦長剥片で比較的珪質分に富む良質の個体を素材とする。頭部は僅かに欠損している。

#### 第11ブロック第48遺物集中部

第49遺物集中部に隣接する位置に形成された小規模な集中部である。頁岩Ⅲ類を素材とする剥片の分布も見られるが、玉髓を素材とする剥片も重複して分布している。石核等は抽出されていない。

#### 第11ブロック第49遺物集中部（第165図：第28表）

第50遺物集中部に隣接する位置に形成された集中部である。頁岩Ⅲ類を素材とする剥片等が径40cm程の範囲に密集しており、下部には比較的大型の頁岩や石核等が密集した状態で検出された。石核1点、叩石2点が抽出された。

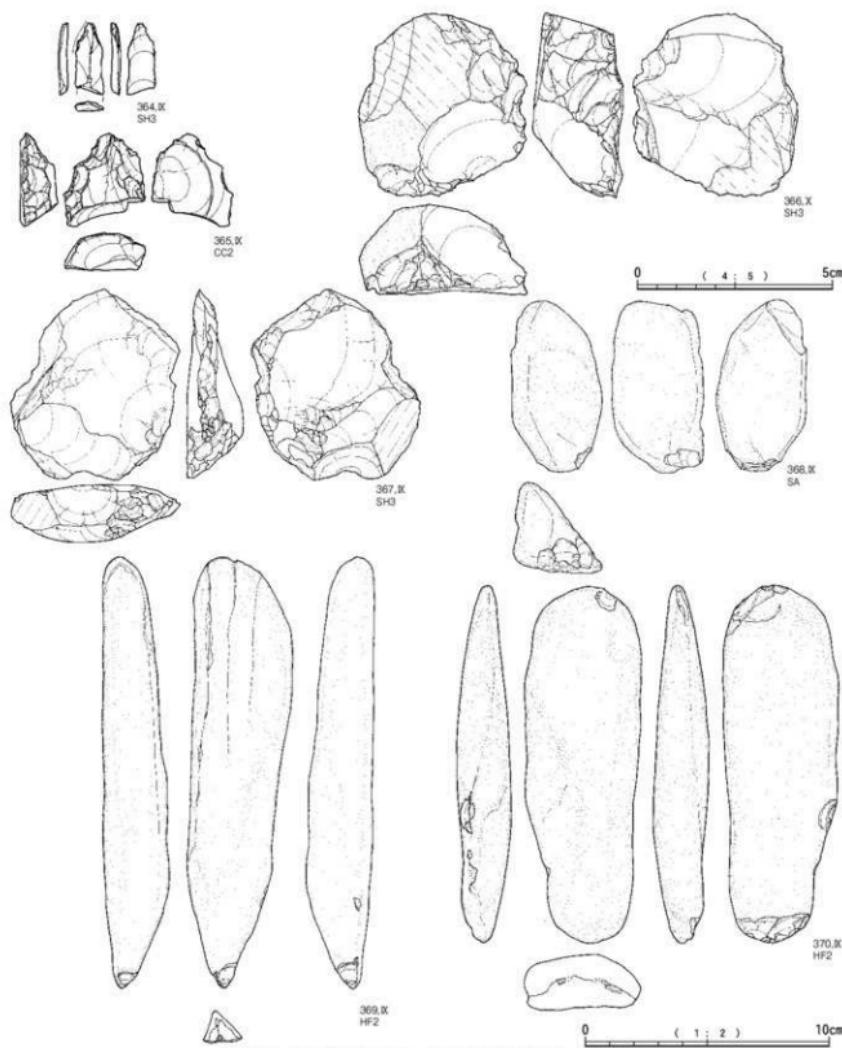
361は石核である。打面と作業面を反転させながら求心状に剥離を進行させるタイプの資料であり、残核形状は亀甲状

を呈する。ただし、石核に残された剥離痕に観察される主軸長は20mm～40mm程度とやや聞きがあり、目的的剥片の剥片サイズは一定しない。剥離がやや粗め的印象を受ける資料である。残核は径5cmほどの状態で残されており、比較的大型の状態で放棄された資料である。

362は叩石である。輝石安山岩を素材とするもので、被熱し破砕しているが、側面の一部に強めの敲打痕が観察されるため叩石と判断した。なお、この資料は自然面の一部にやや平滑な部分が形成されており、磨石を転用している可能性がある。363も叩石である。砂岩を素材とするものでやはり被熱し破砕しているため判別しにくいが、下端部に敲打痕が観察される。

#### 第11ブロック第50遺物集中部（第166図：第28表）

14号縄群と重複する位置に形成された集中部である。頁岩Ⅲ類および玉髓Ⅱ類の剥片等が分布している。石器はナイフ



第166図 第Ⅲ文化層第11ブロック第50遺物集中部出土石器実測図

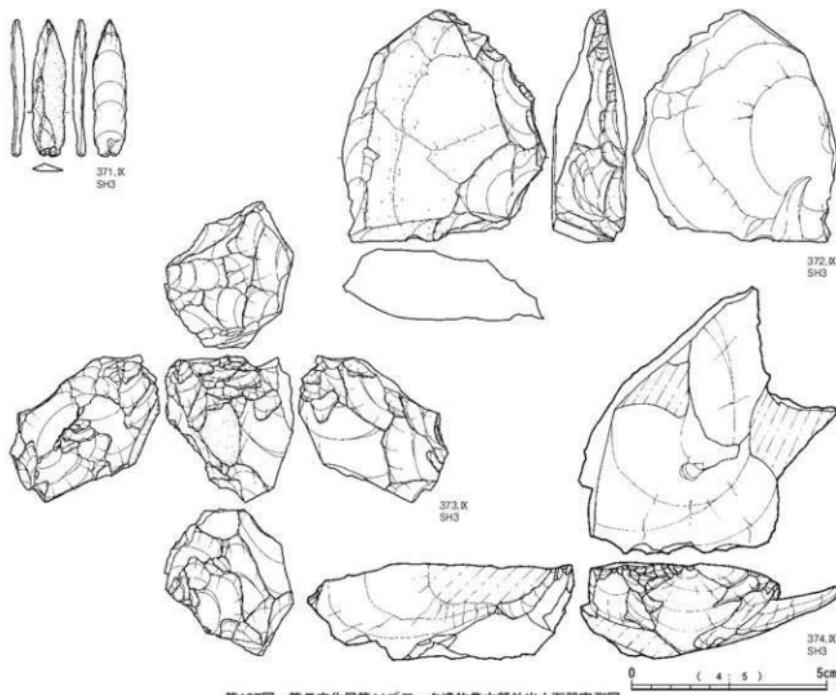
形石器、削器、撲器、石核各1点と叩石3点が抽出された。

364は小型縱長剥片を素材とするナイフ形石器である。正面左側縁先端部付近に二次加工が施されている。先端部のみの欠損品である。365は玉韁Ⅱ類を素材とする削器で、やや厚手の不定形剥片を素材とする。正面右側縁に二次加工が施され、刃部が形成されている。366は撲器である。一部欠損

しているが、主軸長5cm程度の厚手の剥片を素材とし、素材の主要剥離面側から二次加工を加えている。

367は石核である。主軸長5cmを越える大型の剥片を素材としているが、素材が薄いためか剥離は1枚のみでのまま放棄されている。

368,369,370は叩石である。368は砂岩の円礫を素材とする



第167図 第III文化層第11ブロック遺物集中部外出土石器実測図

ものである。下端部に下面側からの衝撃による剥離が観察される。369.370はホルンフェルスの様状礫を素材とするものである。369は先端部に僅かな敲打痕と衝撃剥離が観察される。370は先端部が衝撃により僅かに潰れており、叩石と判断した。いずれも衝撃剥離等が観察されるが明確な敲打痕が形成されるほどは使用されておらず、基本的には便宜的な性格の強いものと考えられる。

#### 第11ブロック遺物集中部外（第167図：第28表）

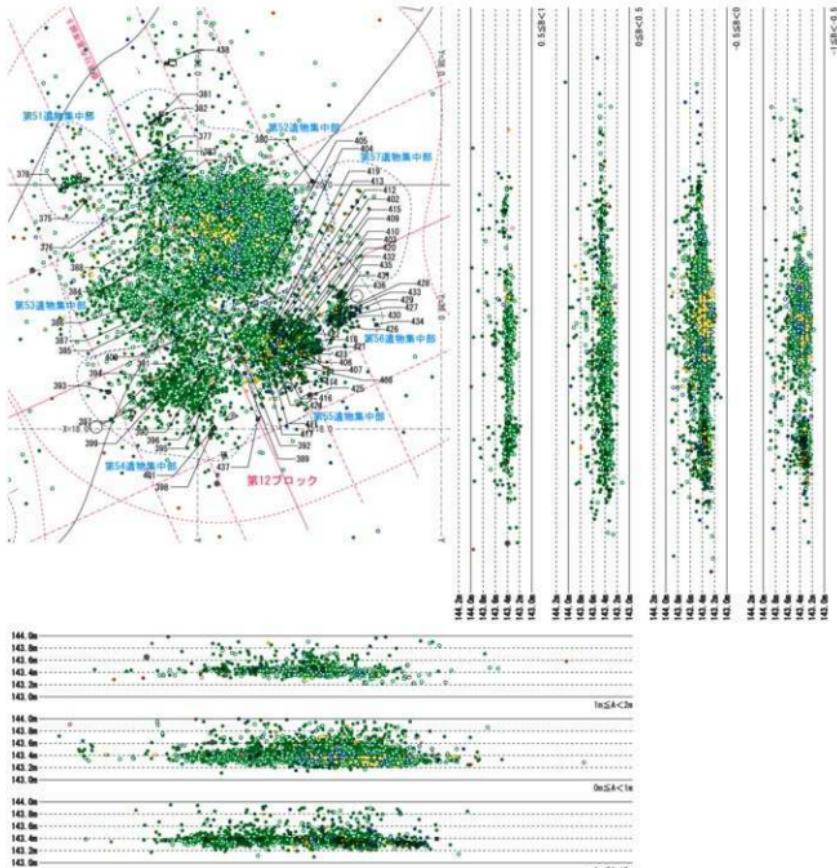
ナイフ形石器1点、削器1点、石核2点を抽出した。

371は小型綫長剥片を素材とするナイフ形石器である。基

部及び先端部に僅かな加工が施されている。372は削器である。幅6cm程度の大型の幅広剥片を素材とし、素材の右側縁に簡単な二次加工を施して刃部を形成している。373は石核である。素材形状は不明であるが、打面と作業面を反転させながら剥片剥離を行なっている。剥片剥離はほぼ極限まで進行しているが求心的な剥離は指向されず、残核形状は舟形に近い。374も石核とした。厚さ3cm程度の剥片を素材とし、素材の主要剥離面を打面として剥片剥離を行なっている。素材面の形状から剥離はそれほど進んでいない状況が看取され、比較的大型の状態で放棄されたている。

#### 第28表 第III文化層第11ブロック出土石器観測表（2）

標本No.	実上No.	取上No.	X幅(mm)	Y幅(mm)	Z幅(mm)	プロト?	集中部	部位	半幅L2	分類3	石核1	石核2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	参考
165	361	27206	16.684	33.949	143.396	B11	C49	Ⅹ	石核		SH3	-	45.7	54.1	47.4	119.39 組合資料No104_P1
	362	27240	16.616	33.903	143.349	B11	C49	Ⅹ	石核		KAN	-	67.5	54.5	56.2	251.73
	363	27223	16.723	34.127	143.356	B11	C49	Ⅹ	石核		SA	-	56.8	58.2	46.4	125.46
166	354	21635	17.233	34.219	143.416	B11	C50	Ⅹ	ナイフ形石器		SH3	-	17.9	7.4	2.8	0.22
	365	23907	17.256	34.046	143.374	B11	C50	Ⅹ	剥離		CC2	-	23.3	20.5	10.1	2.72 組合資料No105_C1
	366	40033	17.420	33.770	143.399	B11	C50	Ⅹ	剥離		SH3	-	22.7	45.9	23.4	47.29 組合資料No105_C1
	367	27129	17.299	34.233	143.371	B11	C50	Ⅹ	石核		SH3	-	23.2	67.3	78.4	109.88
167	368	27181	17.038	34.161	143.340	B11	C50	Ⅹ	石核		SA	-	70.5	37	37.5	89.3
	369	27134	17.389	34.229	143.393	B11	C50	Ⅹ	石核		Hf2	A	177	43.2	28	243.47
	370	20757	17.548	34.327	143.397	B11	C50	Ⅹ	石核		Hf2	A	146.5	47.8	22.8	203.98
	371	23009	17.996	31.826	144.026	B11	-	Ⅹ	ナイフ形石器		SH3	-	34.1	8.5	3.7	0.74
168	372	23007	18.962	32.290	144.076	B11	-	Ⅹ	剥離		SH3	-	57.6	50.8	19.6	58.74 組合資料No104_C1
	373	21603	18.831	34.311	143.368	B11	-	Ⅹ	石核		SH3	-	36.6	32.1	37.9	39.49 組合資料No103_U1
	374	26598	0.000	0.000	0.000	B11	-	Ⅹ	石核		SH3	-	24.8	65.9	68.7	91.3 組合資料No103_D1



第168図 第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器分布図

#### 第12ブロック（第168図）

約4mの間隔を置いて分布する第10ブロックから第12ブロックのうち、最も南側に位置するブロックである。頁岩Ⅲ類を主体とし、玉體Ⅱ類と黒曜石Ⅰ類を客体的に組成する。非常に濃密な分布状態を示し、本遺跡では最大のブロックとなる。集中部は7か所認定したが、特に第52遺物集中部はあまりに分布密度が高く、さらに細分できる可能性が高い。

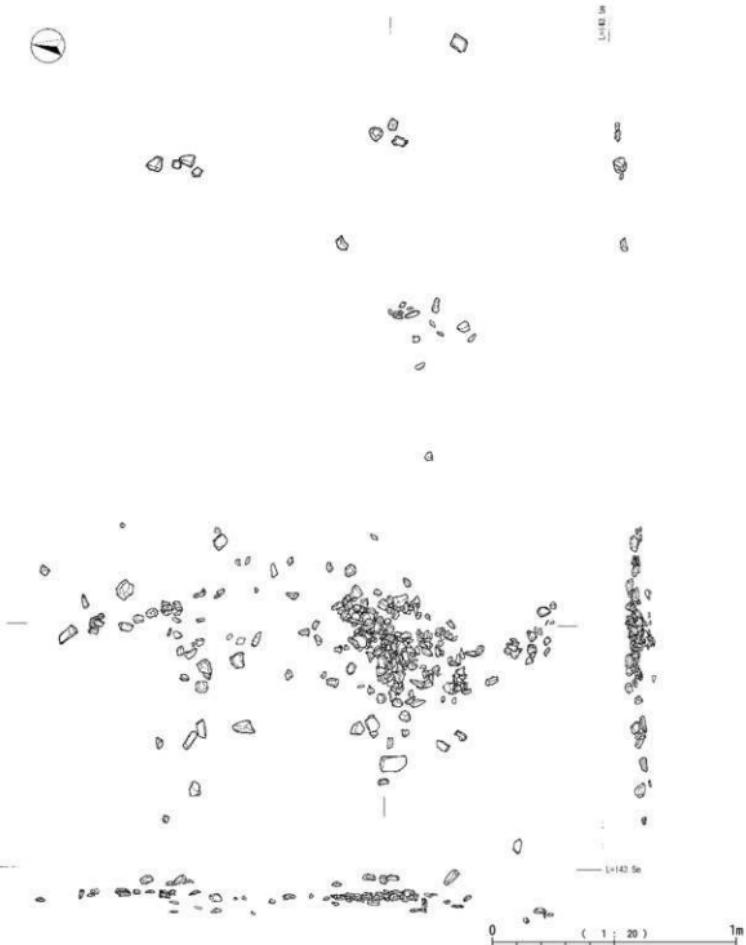
ブロックの下部からは、比較的大型の剥片や石核等が集中した状態で検出された（第169図）。この比較的大型の剥片等集中部は小規模なものが第51遺物集中部と第52遺物集中部の複数箇所にみられるほか、第54遺物集中部から第56遺物集中部にかけて比較的多く分布している。この状況は片等が第52遺物集中部と第53遺物集中部に密集する状況とは好対照

をなしており、集中部毎に行われた石器製作行為の差を反映しているものと推測される。

#### 第12ブロック第51遺物集中部（第170図；第29表）

第12ブロックの縁辺部に位置し、小規模な集中部を形成している。第52遺物集中部及び第53遺物集中部とは少し間隔を置いて分布している。頁岩Ⅲ類を主体とし、下部に小規模ながら比較的大型の剥片と石核の集中部が検出されている。石核1点が抽出されたほかに、縦長剥片3点を掲載する。

375～377は頁岩Ⅲ類を素材とする剥片である。主軸長は25mm～35mm程度である。378は石核である。分割線を素材として、平坦な先行剥離面を打面として剥離が行われている。石核を転回して調整剥離を施しながら剥離を行つ



第169図 第三文化層第12ブロック下部石核等出土状況図

ている状況が看取できるが、基本的には打面は固定されており、石核からは積極的な打面転移等は観察されない。

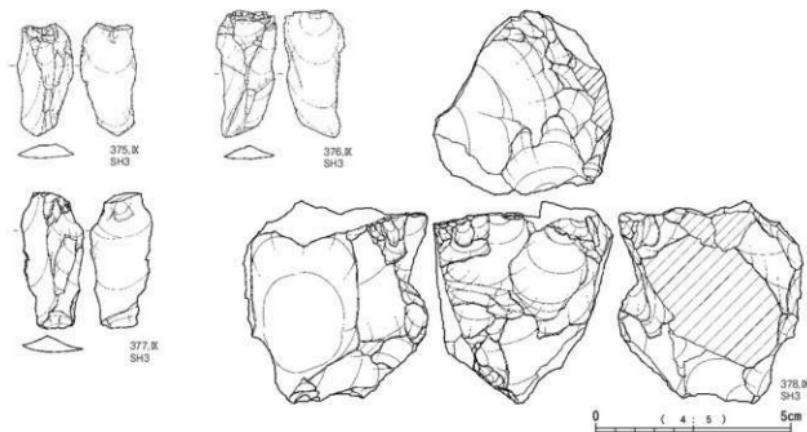
#### 第12ブロック第52遺物集中部（第171図：第29表）

第12ブロックの中央部に位置する集中部の一つで、碎片及び剥片の濃密な集中部が広い範囲に形成されている。第12ブロック冒頭でも触れたが、分布密度があまりに濃密で細分は困難であった。下部で小規模ながら比較的大型の剥片と石核の集中部が検出されており、剥片の分布や接合状況等を加味すると、いくつかの集中部に細分できそうである。石材は貯

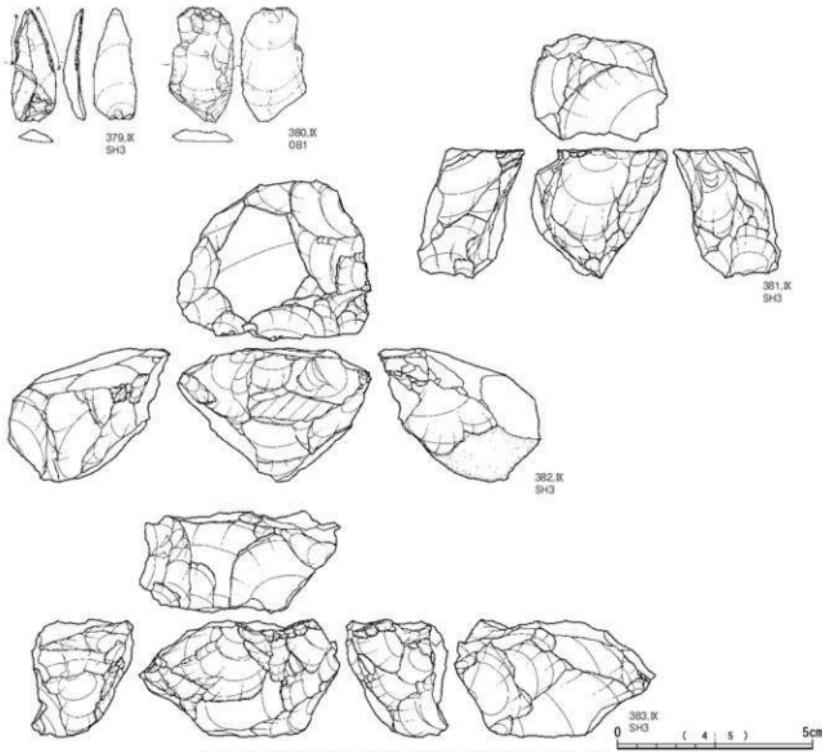
岩Ⅲ類を主体とし、黒曜石1類と玉髓Ⅱ類を客体的に組成する。石器はナイフ形石器1点、石核3点を抽出した。この他に、縦長剥片1点を掲載する。

379は小型の縦長剥片を素材とするナイフ形石器である。正面の中央部から先端部にかけて、細かな二次加工が施されている。380は縦長剥片である。黒曜石1類を素材とするもので、主軸長は30mm程度である。微細剥離痕等は観察されない。

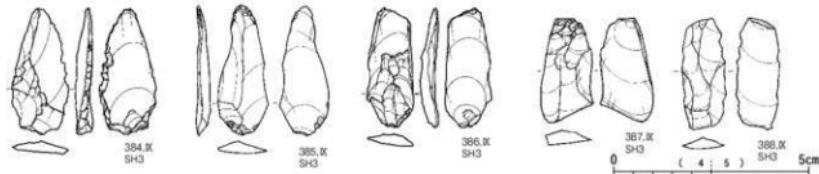
381.382.383は石核である。いずれも径4cm未満と比較的小型の状態で放棄されている。



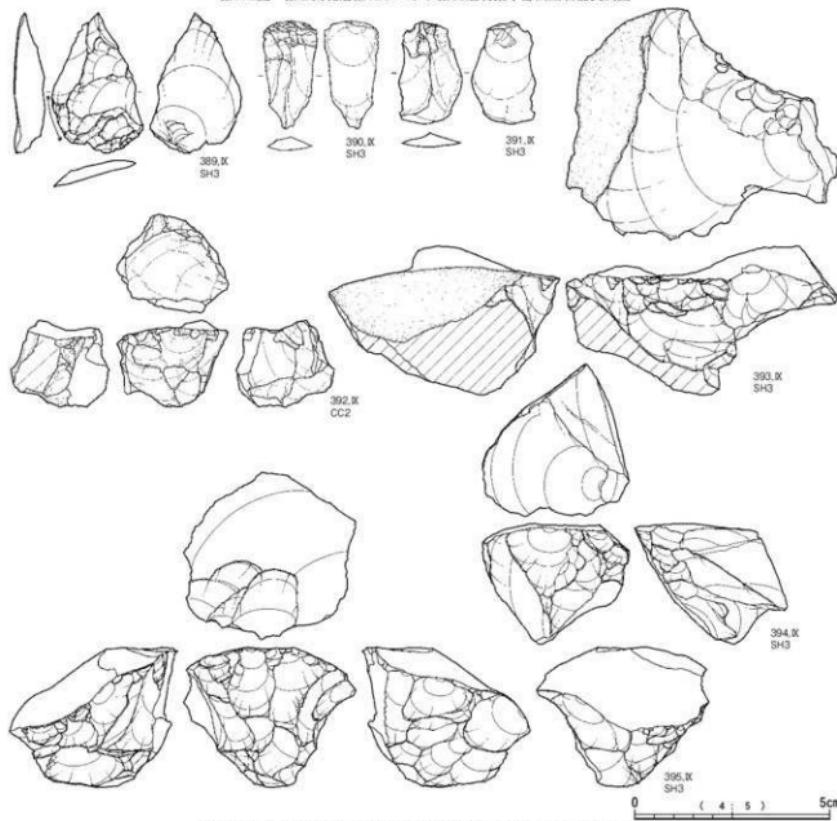
第170図 第三文化層第12ブロック第51遺物集中部出土石器実測図



第171図 第三文化層第12ブロック第52遺物集中部出土石器実測図



第172図 第III文化層第12ブロック第53遺物集中部出土石器実測図



第173図 第III文化層第12ブロック第54遺物集中部出土石器実測図(1)

381は径3cm程度と3点中最も小さいもので、平祖な先行剥離面を打面として剥離が進行している。剥離は極限まで進行しており、残核はやや扁平な形状を呈する。382は剥片素材の石核である。打面と作業面を反転させながら剥離が行われているが上面に観察される剥離は周縁部付近にとどまるものが多く、整形剥離的な意味合いが強い。また作業面については正面一方向のみから形成されており、側面等には剥離は

及ばない。目的的剥片の剥離はまだ若干可能と思われる形状であるが、求心状の剥離が試みられることはなく、そのまま放棄されている。383も石核である。基本的には打面と作業面を反転させながら剥片剥離を進行させるタイプの石核であるが、石核が途中で破断したためか、ややいびつな形状を呈する。分割後も剥離が継続されており、極限近くまで剥離が進行した状態で放棄された資料である。

## 第12ブロック第53遺物集中部（第172図：第29表）

第52遺物集中部に隣接する位置に形成された遺物集中部である。第52遺物集中部と比較すると点数は少ないものの径1m程の範囲に碎片と剥片が比較的濃密に分布している。石器はナイフ形石器2点、微細剝離痕剥片1点が抽出されたが、この他の剥片2点を掲載する。

384はナイフ形石器である。主軸長30mm程度の綫長剥片を素材とし、背面側から主に裏面左側縁と基部付近に二次加工を加えて製品としている。385もナイフ形石器で形状は384に類似するものの、二次加工は基部と先端部付近にごく僅かに施されるのみである。386は微細剝離痕剥片である。先端部の一部に僅かな微細剝離痕が観察される。387,388は剥片である。主軸長は25mm程度で連続的に剥離された綫長剥片である。

## 第12ブロック第54遺物集中部（第173図～第175図：第29表）

第54遺物集中部から第56遺物集中部にかけては、碎片の分布密度が低く、下部に比較的大型の剥片及び石核等の集中部が検出されている点で共通性がある。

第54遺物集中部は径60cm程の範囲に剥片が集中する。下部ではやや散漫ながら、比較的大型の剥片類及び石核等が検出されている。本集中部では石核が10点出土しており、隣接する第55遺物集中部と並んで、他の集中部と比較しても明らかに組成点数が多い状況が看取できる。ここでは微細剝離痕剥片2点、石核10点のほか、剥片1点を掲載する。

389は微細剝離痕剥片である。ややいびつな形状であるが主軸長35mm程度の剥片の正面右側縁の一部に微細剝離痕が観察される。390も微細剝離痕剥片で、正面右側縁の先端部付近に微細剝離痕が観察される。391は剥片である。頁岩Ⅲ類を素材とする主軸長25mm程度の綫長剥片である。

392～398は石核である。

392は玉髓Ⅱ類を素材とするもので、平坦な先行剝離面を

第29表 第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器観察表（1）

標印No.	地番	計上位	X座標	Y座標	地層	フローラ	集中部	部位	中型L	9個L	EML1		EML2		最大L(mm)	最大W(mm)	重量(g)	備考
											位置	中型L2	EML1	EML2	最大L(mm)	最大W(mm)	重量(g)	
170	376	26914	18.957	35.077	143.457	B12	C51	X 剥片	-	943	-	28.1	14.1	4.8	1.37			
	376	29012	18.910	35.576	143.455	B12	C51	X 剥片	-	943	-	31.6	15.4	4.1	1.80	複合剥離No116_A22		
	377	25574	20.057	35.295	143.470	B12	C51	X 剥片	-	943	-	33.6	16.4	4.9	1.94			
	378	40730	18.955	34.874	143.442	B12	C51	X 石核	-	943	-	50.2	44.7	47.5	113.86	複合剥離No127_NT		
171	379	26416	20.017	36.813	143.496	B12	C52	X ナイフ形石器	-	943	-	27.8	10.8	6.1	1.09			
	380	46845	20.027	36.941	143.526	B12	C52	X 剥片	-	981	-	28.5	16.5	4.3	1.75			
	381	40724	20.644	36.663	143.449	B12	C52	X 石核	-	943	-	32.3	34	27.6	27.6	複合剥離No108_M1		
	382	40725	20.506	35.613	143.457	B12	C52	X 石核	-	943	-	33.4	48.2	41.3	56.9	複合剥離No110_D1		
172	383	40731	20.045	35.699	143.443	B12	C52	X 石核	-	943	-	29.4	49.9	36.5	40.71	複合剥離No108_H1		
	384	31944	19.367	35.605	143.410	B12	C50	X ナイフ形石器	-	943	-	31.4	14.4	4.6	1.44	複合剥離No116_A46		
	385	23876	18.961	35.824	143.554	B12	C53	X ナイフ形石器	-	943	-	32.3	12.5	4	1.07	SG183_A2		
	386	29045	18.978	35.353	143.408	B12	C50	X 微細剝離痕剥片	-	943	-	29.8	11.9	5.1	1.26	複合剥離No130_A1		
173	387	32017	19.020	35.785	143.419	B12	C51	X 剥片	-	943	-	25.9	13.4	4.9	1.55	複合剥離No116_A26		
	388	31203	19.634	35.689	143.435	B12	C50	X 剥片	-	943	-	27.9	11.1	3.7	0.91			
	389	33778	18.454	36.384	143.402	B12	C54	X 微細剝離痕剥片	-	943	-	35	22.9	8.2	3.00	SG133_A1		
	390	49041	18.463	36.039	143.369	B12	C54	X 微細剝離痕剥片	-	943	-	26.9	13.6	4.2	1.32	複合剥離No116_A24		
174	391	45577	18.476	35.843	143.385	B12	C54	X 剥片	-	943	-	25.6	16.1	4.6	1.52			
	392	45599	18.669	36.340	143.370	B12	C54	X 石核	-	CC2	-	21.8	27.8	25.4	14.66	複合剥離No132_V1		
	393	41519	18.303	35.271	143.366	B12	C54	X 石核	-	943	-	37.1	67.4	59.5	90.93	複合剥離No114_G1		
	394	41504	18.411	35.799	143.390	B12	C54	X 石核	-	943	-	30.1	36.5	39.4	33.17	複合剥離No122_B4		
175	395	41526	18.155	36.035	143.384	B12	C54	X 石核	-	943	-	34.9	42.9	43.1	53.8	複合剥離No116_C1		
	396	41499	18.345	36.120	143.381	B12	C54	X 石核	-	943	-	30.1	62.7	53.5	105.7	複合剥離No120_B1		
	397	41516	18.378	35.597	143.365	B12	C54	X 石核	-	943	-	33.8	66.6	53.5	125.3	複合剥離No122_E1		
	398	41529	17.957	36.107	143.328	B12	C54	X 石核	-	943	-	25.4	83.5	46	129.75	複合剥離No114_J1		
176	399	41511	18.253	35.668	143.371	B12	C54	X 石核	-	943	-	33.1	73	39.9	114.06	複合剥離No114_B2		
	400	41503	18.736	35.836	143.361	B12	C54	X 石核	-	943	-	29.3	53.2	49	103.89	複合剥離No113_B1		
177	401	41529	18.013	36.136	143.328	B12	C54	X 石核	-	943	-	46.8	52.1	57.6	116.29	複合剥離No121_H1		

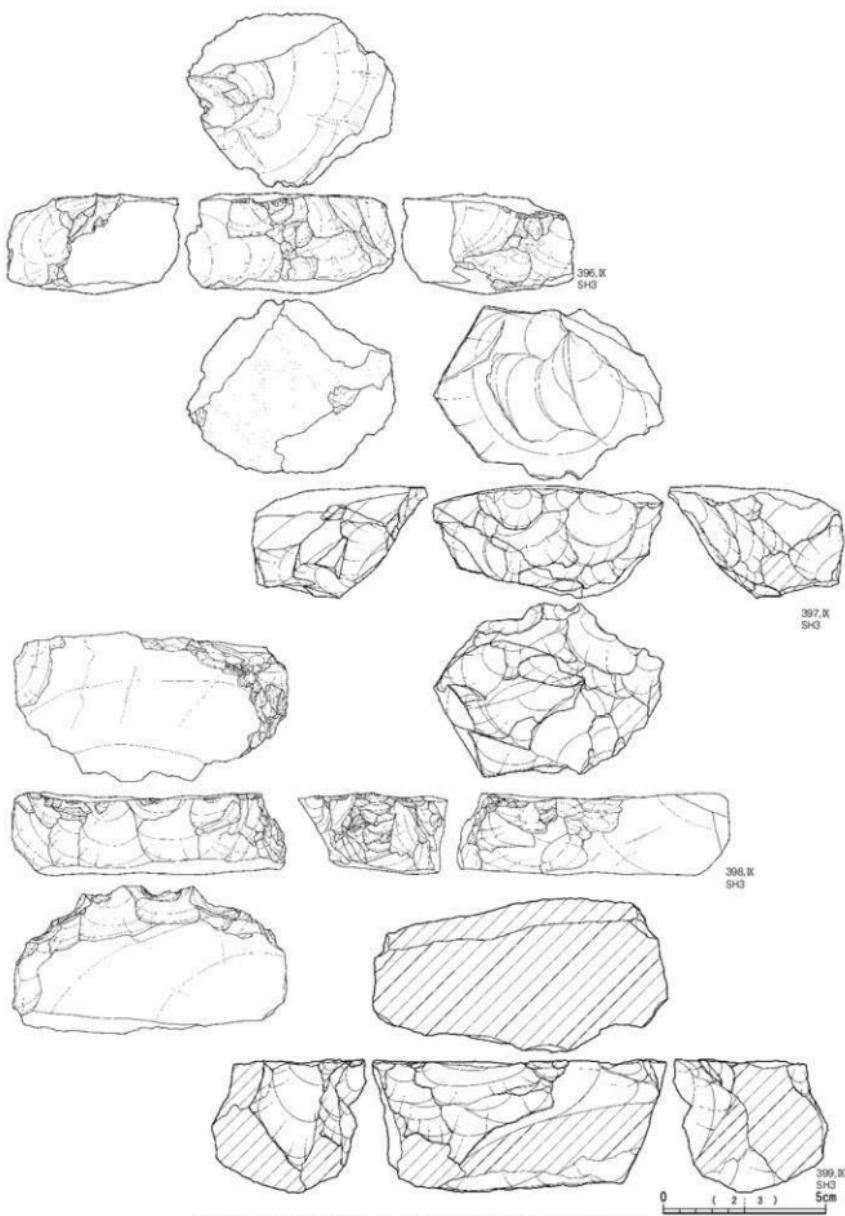
打面として剥片剥離を行うものである。残核は径2cm程度ではほぼ極限まで剥離が進行し放棄された資料である。

393～398は頁岩Ⅲ類を素材とする石核である。剥片素材の石核と分割剥もしくは板状礫素材の石核に区分される。

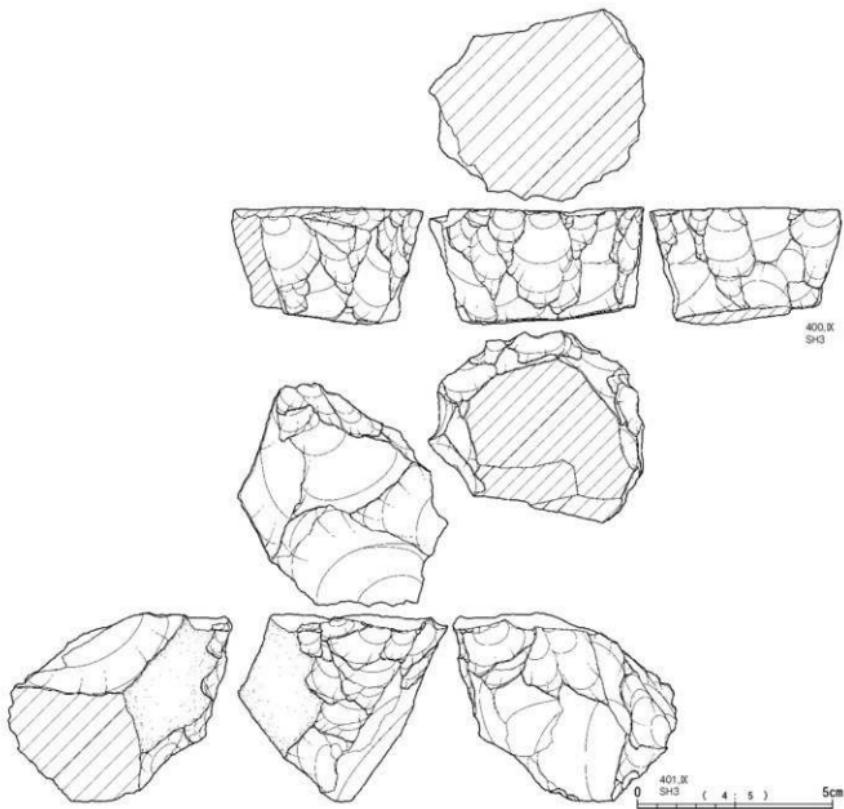
このうち、393～397は剥片を素材とするものである。

393はいびつな大型の剥片を素材とし、素材の主要剥離面を打面として剥離を行うものである。ただし、目的的剥片剥離段階の剥離は部分的で作業面としては安定せず、比較的大型の状態で放棄されている。394は比較的小型の剥片を素材とする。平坦な剥離面を打面として目的的剥片の剥離が行われているが、素材が小さいため作業面の形成は一部分のみでそのまま放棄されている。395は素材剥片の主要剥離面を打面として剥離が進行する。途中打面を反転して数枚の剥離を行っているが、目的的剥片の剥離は当初の打面にはほぼ固定されて剥離が進められている。反転時に剥離がほとんど行われていないため、残核は円錐形を呈する。残核は径4cmでやや大きめの状態で放棄されている。396は比較的大型の剥片を素材とする。一部に細かな剥離が観察されるものの、主要剥離面側からは目立たず目的的剥片の剥離は観察されない。右側面には素材の主要剥離面を側面に置く小口面剥離型に類する剥離が看取られ注意を要する。397も比較的大型の剥片を素材とするもので、素材の主要剥離面を打面として剥離が行われている。やや石核が大型ではあるが、打面等の反転は行われておらず、基本的には単設打面に近い状況で剥離が行われている。

398～400は簡理に沿って分割された板状礫を素材とするものである。扁平な節理面を打面として剥離が行われているものが多い。398,399は厚手の板状礫を素材とするものである。当初別々の個体として実測を行ったが、固結後に接合した。平坦な分割面を打面として、主軸長5cm程度のやや大きめの剥離が行われている。剥離の途中で上下に破断しており、破断後は両者ともそのまま放棄されたようである。



第174図 第II文化層第12ブロック第54遺物集中部出土石器実測図（2）



第175図 第三文化層第12ブロック第54遺物集中部出土石器実測図(3)

400は節理面に沿って分割された板状礫を素材とする石核である。平坦な節理面を打面として剥離が進行する。打面等が反転されることはない。基本的に単設打面に近い状況で剥離が行われている。

401は分割礫素材の石核である。基本的に平坦な剥離面を打面として剥離が進行するが、打面転移が繰り返されており作業面は安定しない。径5cm程度と比較的大型の状態で放棄されている。

#### 第12ブロック第55遺物集中部

(第176図～第181図；第30～第31表)

第54遺物集中部と第56集中部の中間的な位置に形成された集中部である。下部に比較的大型の剥片や石核等がまとまって検出されている。微細剥離痕剥片2点。石核20点を抽出したが、石核の組成点数が非常に多いのが特徴である。この他に、剥片2点を掲載する。

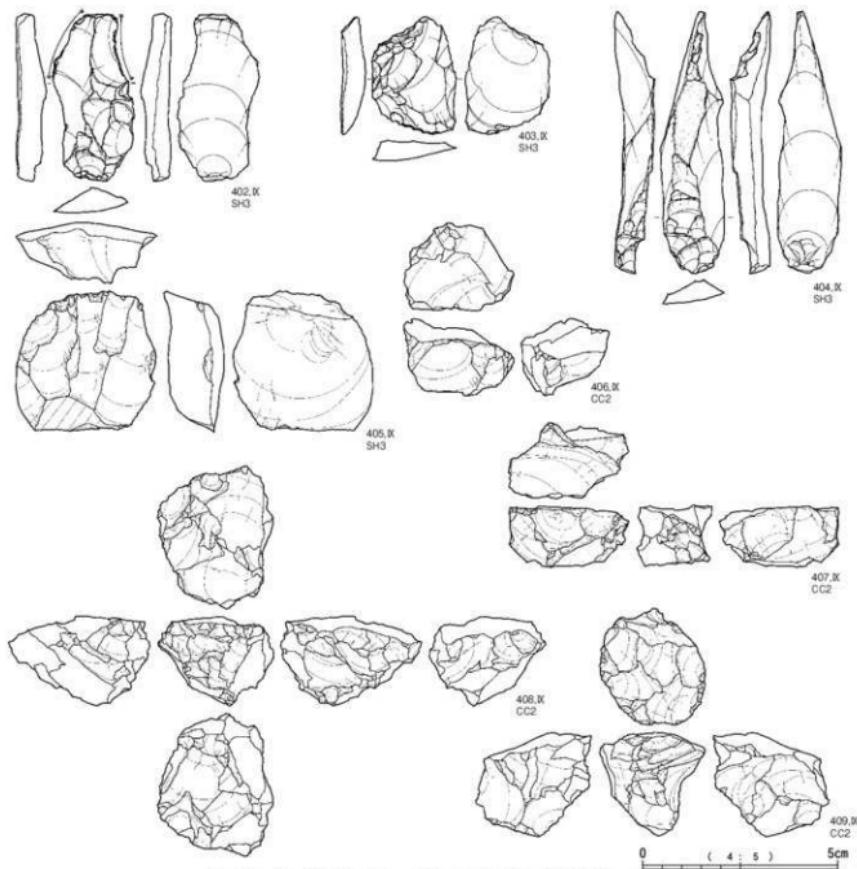
402は微細剥離痕剥片である。主軸長50mm程度のやや大きめの縦長剥片を素材とする。正面の先端部付近に微細剥離痕が観察される。先端部は欠損している。403も微細剥離痕剥片である。やや幅広の小型縦長剥片を素材とする。正面の先端部付近に微細剥離痕が観察される。

404～425は石核である。このうち406～409は玉體II類を素材とするもので、406, 407, 408は先行する平坦な剥離面を打面として目的的剥片の剥離を行うものである。一方、409は打面と作業面の反転を行なうながら求心的に剥離を進めるもので、残核形状は亀甲状を呈する。

いずれの資料も極限に近い状態まで剥離が進行しており、矮小化した状態で放棄されている。

410～425は頁岩III類を素材とするものである。

410は小型の剥片素材の石核で、平坦な先行剥離面を打面として求心的に剥離を行っている。非常に小型の資料であるが打面の反転等はほとんど行われていない。411も剥片素材

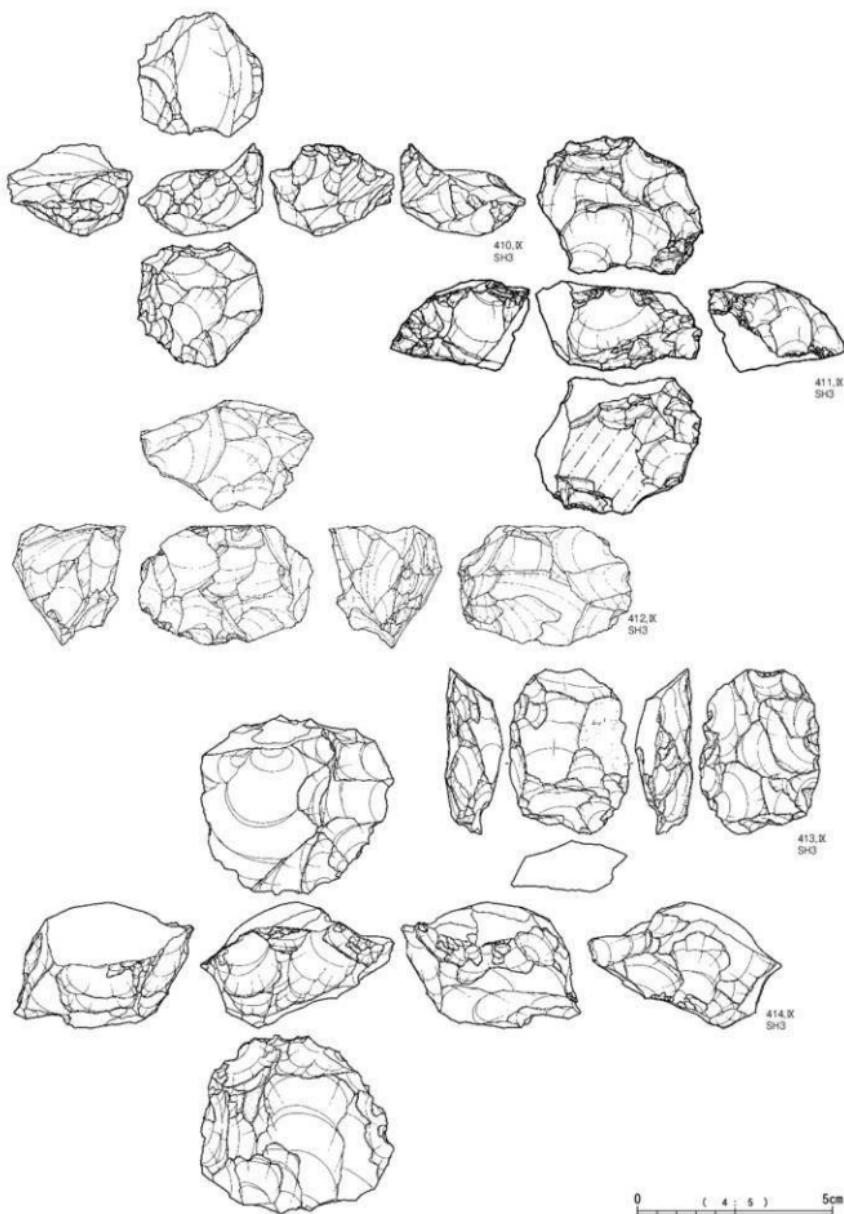


第176図 第II文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図 (1)

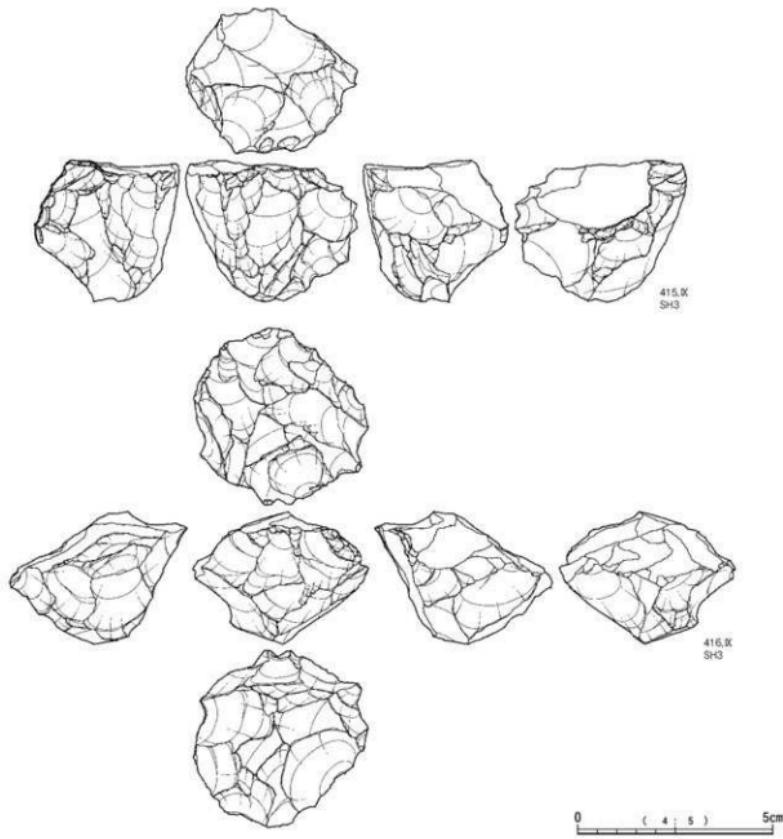
の石核で一部に自然面を残すが、打面と作業面を反転させながら求心状剥離に近い形態で剥離が進められている資料である。極限に近い状態まで剥離が進行しているが石核の底面には素材面が残されており、残核形状はややいびつな亀甲状を呈する。412も剥片素材の石核で打面と作業面を反転させながら剥離が行われている資料である。周縁から順次打点を移動しながら剥離が進められている。剥離技術は求心状剥離に近いが素材形状に規制を受けたためか作業面が完全には全周せず、残核形状はやや細長い亀甲状を呈する。413は薄手の剥片を素材とする石核で打面と作業面を反転させながら剥離を行っている。やはり剥離形態は求心状剥離に近いが412同様に打点は全周していない。残核形状は薄手のやや細長い亀甲状を呈する。

414は比較的大型の剥片を素材とする石核である。剥片素材の求心剥離型石核の典型例で接合資料No17に属する石核である。基本的には素材剥片の主要剥離面を打面として剥片剥離が進められており、途中で打面と作業面が反転されている。反転時の剥離は部分的に石核周縁を全周することなく、打面と作業面を再度反転して最終段階まで剥離が継続されている。残核径は4cm程度とやや大きめの状態で放棄されている。

415はやや厚手の素材を使用する石核である。接合資料No126に属する資料で、素材面はほとんど残されていないが接合資料から繰り返す石核と理解される。先行剥離面を打面として剥離が進行するタイプの石核で順次打点を移動しながら主軸長30mm程度の縱長剥片を剥離している。時折剥離面の



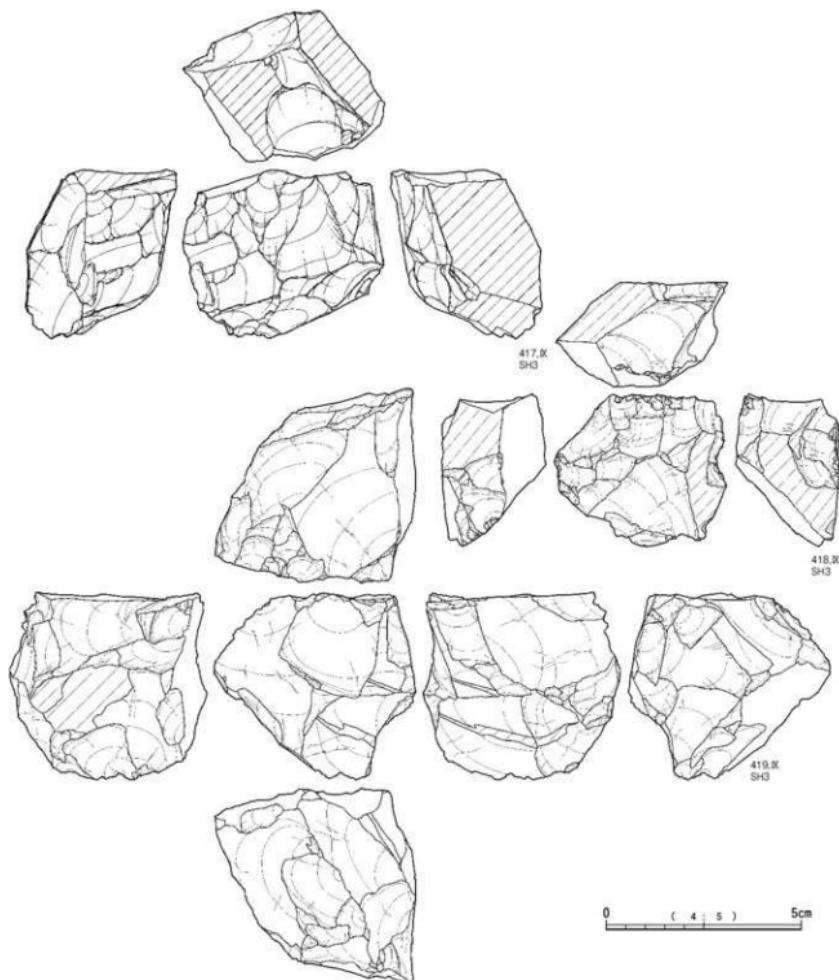
第177図 第三文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（2）



第178図 第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（3）

第30表 第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器観察表（2）

測定No.	試行No.	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	プロトク	集中部	属性	分類L2	分類L3	EHL1	石種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
402	37897	18780	36.626	143.394	812	C55	Ⅹ	側面剥離断片	SH3	-	41.5	20.5	8.1	4.7	混合質Ne14_D44		
403	54163	18734	36.773	143.336	812	C55	Ⅹ	側面剥離断片	SH3	-	29.3	21.2	6.6	3.19	SG203_A1		
404	30406	18908	36.544	143.401	812	C55	Ⅹ	断片	SH3	-	64.9	16.1	10.7	7.68	混合質Ne124_S3		
405	40771	18777	36.966	143.378	812	C55	Ⅹ	断片	SH3	-	34.8	34.8	15.9	20	混合質Ne15_K16		
406	54158	18638	36.852	143.313	812	C55	Ⅹ	石核	CC2	-	19.4	27.6	22.7	8.51	混合質Ne132_F1		
407	45626	18603	36.843	143.354	812	C55	Ⅹ	石核	CC2	-	15.4	29	19.7	8.18	混合質Ne132_J1		
408	51745	18543	36.730	143.339	812	C55	Ⅹ	石核	CC2	-	22.4	28.9	36.7	18.33	混合質Ne132_M1		
409	41466	18710	36.681	143.371	812	C55	Ⅹ	石核	CC2	-	25.8	26.4	30.1	15.12	混合質Ne132_C1		
410	51761	18753	36.751	143.341	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	23.2	31.1	32	18.66	混合質Ne124_L1		
411	24600	18444	36.624	143.533	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	22.5	41.4	35.5	36.41	混合質Ne109_D1		
412	51765	18802	36.634	143.351	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	31.5	44.7	28.6	35.13	混合質Ne124_A1		
413	40765	18833	36.625	143.378	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	41	30	15	17.26	混合質Ne124_G1		
414	51741	18445	36.842	143.313	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	31.4	48.1	46.4	66.49	混合質Ne117_01		
415	41470	18726	36.634	143.364	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	35.2	42.7	37.2	52.4	混合質Ne126_L1		
416	41453	18459	36.734	143.350	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	33	43.8	45.6	49.1	混合質Ne125_K1		
417	51773	18661	36.526	143.352	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	41.9	50.1	39	81.19	混合質Ne129_R1		
418	51736	18681	36.896	143.319	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	37.9	42.9	27.1	40.1	SG227_B1		
419	40764	18857	36.612	143.370	812	C55	Ⅹ	石核	SH3	-	46.4	56.3	50	115.14	混合質Ne128_R1		



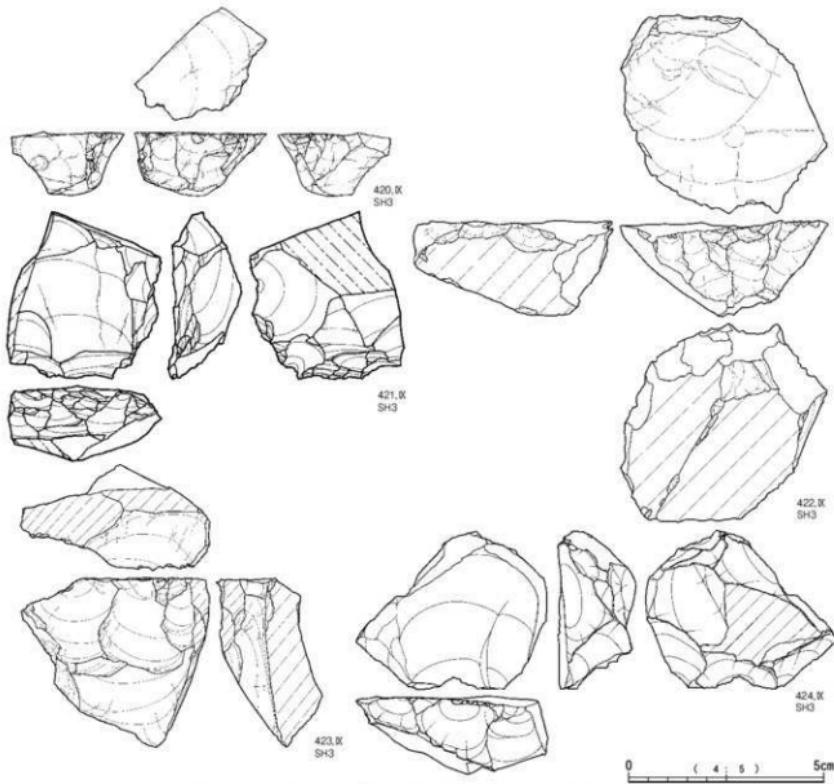
第179図 第三文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（4）

一部や打面に剥離痕が観察されるが、この剥離は周縁部にとどまり石核調整を意図したものである可能性が高い。416も素材形状は不明であるが、典型的な求心剥離型石核である。表裏面とも周縁から求心状に目的的剥片を剥離しており、残核形状は亀甲状を呈する。上面側に観察される剥離もほぼ全周しており、中心部まで達する深い剥離も観察されることから、この資料では表裏両面で目的的剥片の剥離が意図されている可能性が高い。

417,418,419はいずれも節理面を石核の一部に残す資料であ

る。417は平坦な節理面もしくは先行剥離面を打面に目的的剥片の剥離を行うものである。周縁から求心的に剥離を行っており、時折打面と作業面を反転している。反転時の剥離は数枚であり石核調整を意図した可能性が高い。素材面を多く残すものの、剥離技術は求心剥離型石核に近い。418も作業面こそ全周しないものの、基本的には同様の技術で剥離された石核とみられる。

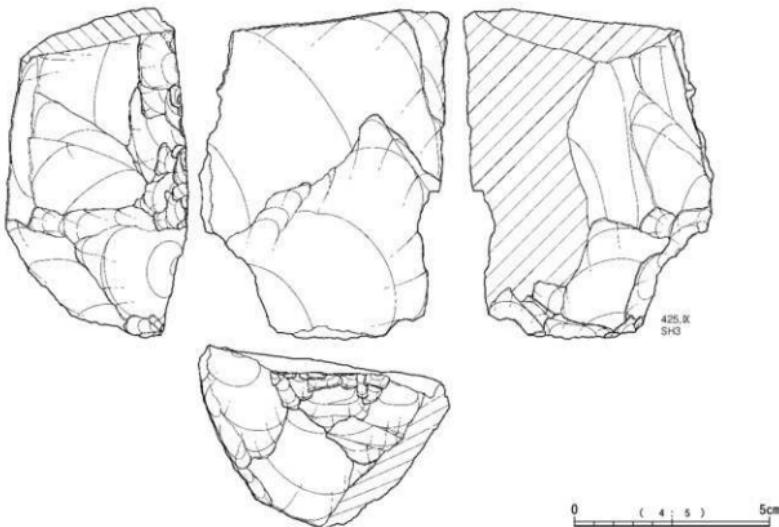
419は径5cm程度と比較的大型の石核である。石核に観察される剥離痕は比較的大きく、目的的剥片剥離段階に移行す



第180図 第Ⅲ文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図(5)

第31表 第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器観察表(3)

発見No.	深度(No.)	取上(No.)	X座標	Y座標	Z座標	プロト・タ	集中度	解説	半面L2	半面L3	EHL1	石Hc.2	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	備考
180	420	40793	18.803	36.844	143.360	B12	C55	X 破片			SH3	-	16	32.8	26.8	11.54	SG149_A3
	421	54157	18.837	37.008	143.272	B12	C55	X 破片			SH3	-	19	38.4	43	28.02	混合資料Ne130_B1
	422	51754	18.643	36.772	143.312	B12	C55	X 破片			SH3	-	24	51.7	51	54.15	混合資料Ne124_B1
	423	51732	18.837	36.938	143.300	B12	C55	X 破片			SH3	-	42.1	46.9	27.3	40.15	混合資料Ne114_B1
	424	51770	18.631	36.621	143.359	B12	C55	X 破片			SH3	-	19.7	47.8	40.8	35.95	混合資料Ne135_C1
181	425	41468	18.775	36.916	143.309	B12	C56	X 破片			SH3	-	45.5	62.4	84.5	299.31	混合資料Ne131_C1
	426	46738	18.862	37.155	143.342	B12	C56	X 滑面剥離断片			SH3	-	31.8	19.4	4	1.9	混合資料Ne133_A42
	427	46739	18.888	37.089	143.345	B12	C56	X 二面加工剥片			SH1	-	29.8	17.9	15.2	8.18	SG359_A3
	428	50023	19.002	37.259	143.306	B12	C56	X 剥片			SH3	-	36.6	20.9	4.9	3.3	混合資料Ne133_C11
	429	50639	18.953	37.262	143.310	B12	C56	X 剥片			SH3	-	26.8	16.1	4.7	1.79	混合資料Ne133_A24
182	430	54879	18.909	37.213	143.303	B12	C56	X 剥片			SH3	-	21.8	14.3	5.8	1.38	混合資料Ne133_C15
	431	51717	18.987	37.139	143.300	B12	C56	X 破片	CC2		SH3	-	24.8	35.6	21	18.12	混合資料Ne132_C1
	432	58076	19.111	37.188	143.261	B12	C56	X 破片	OB1		SH3	-	26.6	27.5	22.8	16.44	混合資料Ne134_B1
	433	51725	18.914	37.093	143.321	B12	C56	X 破片	OB1		SH3	-	17.4	22.4	25	11.15	混合資料Ne111_C1
	434	37899	18.854	37.467	143.392	B12	C56	X 破片	OB1		SH3	-	15.4	39.9	34.3	17.32	混合資料Ne124_B1
183	435	40745	19.080	37.158	143.329	B12	C56	X 破片	OB1		SH3	-	25.7	52.5	42.7	57.16	混合資料Ne136_C1
	436	40746	18.959	37.164	143.336	B12	C56	X 破片	OB1		SH3	-	28.2	40.1	44.3	49.76	混合資料Ne133_D1
	437	25902	18.084	36.496	143.482	B12	-	X 破片	SH3	-	SH3	-	31.2	41.1	40.2	44.48	混合資料Ne123_C1
	438	40723	20.996	35.740	143.452	B12	-	X 破片	SH3	-	SH3	-	53.5	52.1	52.2	188.7	SG226_H1



第181図 第三文化層第12ブロック第55遺物集中部出土石器実測図（6）

る前の石核整形段階に位置づけられる可能性が高い。

420～423は剥片素材の石核である。

420は全体形は不明であるが、剥片素材の石核の一部と見られる資料である。素材剥片の主要剥離面を打面として目的的剥片の剥離が行われている。421も薄手の剥片を素材とする。剥片の周縁から求心的な剥離が行われているが、打点は全周しない。素材が薄いためか作業面の形成は一部にとどまり、そのまま放棄されている。422はやや大きめの剥片を素材とする。素材の主要剥離面を打面として、素材の尾部付近から剥離を進行させている。打面の反転等は行われず、単設打面に近い状態で剥離が進行し径5cm程度と比較的大きな状態でそのまま放棄されている。423は剥片素材の石核で、先行剥離面を打面として数枚の剥離を行っている。石核素材が小さいためか打面転移等は行われず、ほとんど一方向から剥離が進められた状態で放棄されている。424は石核上部のみの欠損資料である。接合資料No135の構成資料で、節理により石核の上半部が分割したものである。

425は分厚い分割離素材の石核である。平坦な分割面を打面として、縁辺部に簡単な剥離を施している。規格性のある剥片を連続的に剥離しようとした痕跡はなく、目的的剥離段階移行前の石核整形段階の資料とみられる。

#### 第12ブロック第56遺物集中部（第182図：第31表）

第55遺物集中部に隣接する位置に形成されている。第54遺物集中部同様、下部には比較的大型の剥片や石核が集中して検出された。石材は、頁岩Ⅲ類が主体を占めるが黒曜石Ⅰ類等も客観的に組成されている。微細剥離痕剥片1点、二次加

工剥片1点、石核6点を抽出した。この他に、剥片3点を掲載する。

426は微細剥離痕剥片である。主軸長25mm程度の縦長剥片を素材とし、正面左側縁の一部に微細剥離痕が観察される。427は黒曜石Ⅰ類を素材とするもので、剥片の左側縁に二次加工が観察される。加工の目的等は不明である。428～430は小型の縦長剥片である。主軸長20mm～40mm程度のものである。

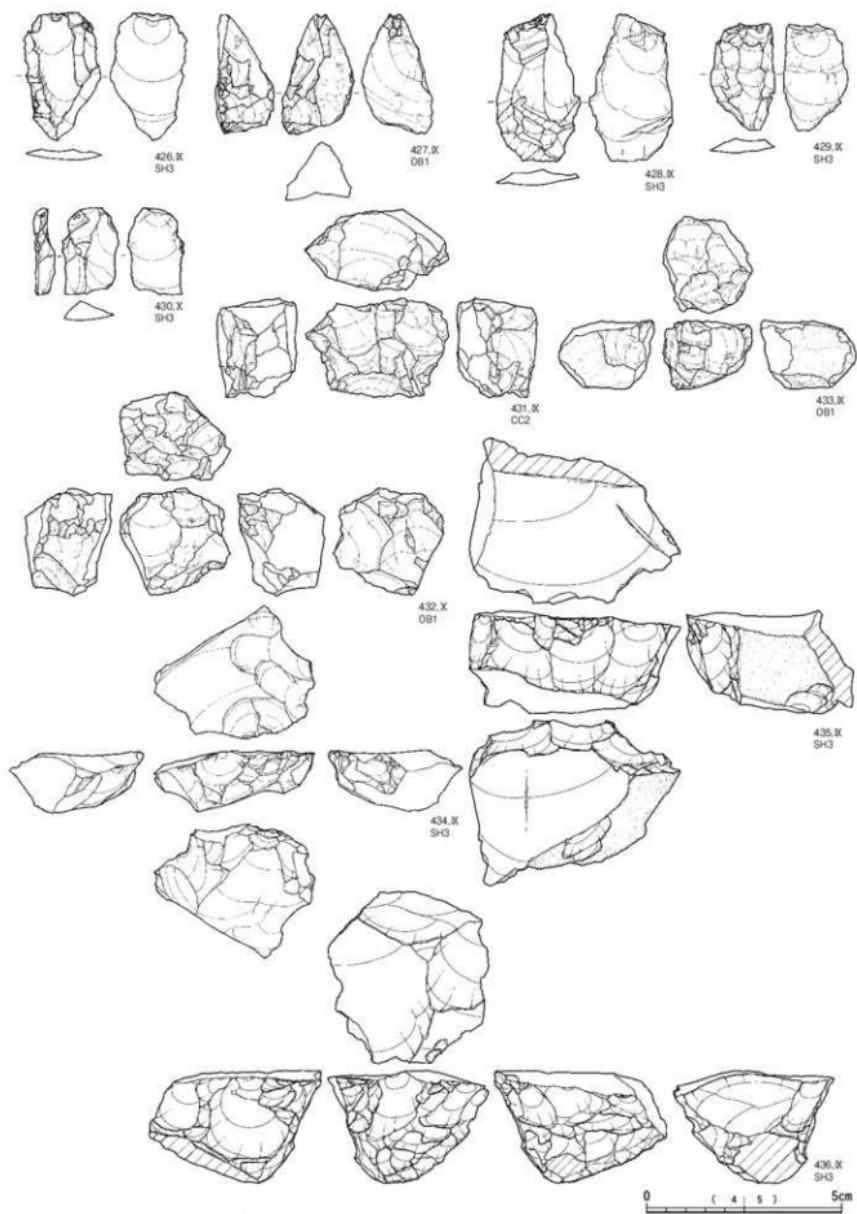
431～436は石核である。

431は玉髓Ⅱ類を素材とするものである。接合資料No112の最終石核で、打面と作業面を反転させながら求心状に剥離を進める石核である。極限まで剥離が進行しいびつな形状を呈するが剥離形状は亀甲状に近い。

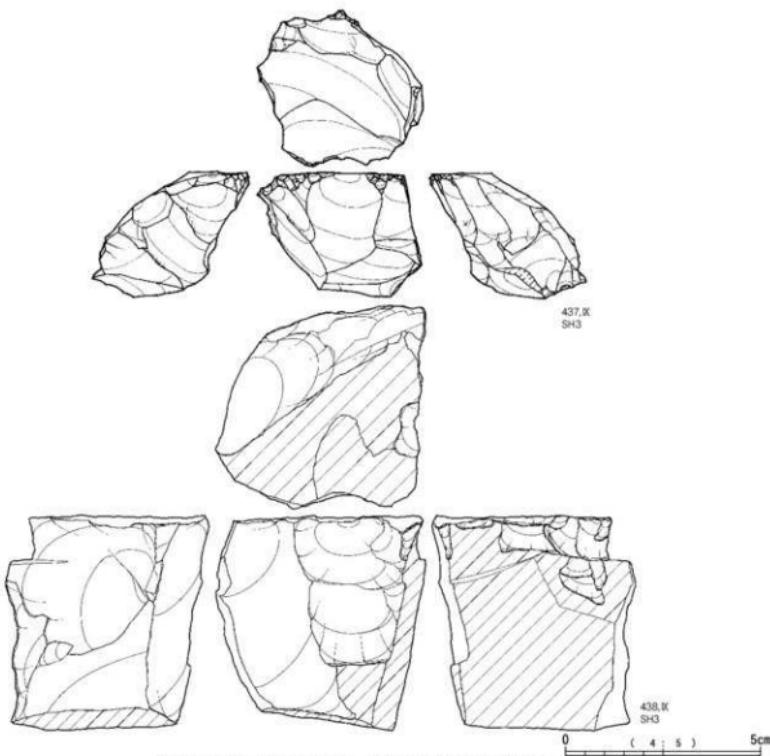
432,433は黒曜石Ⅰ類を素材とする石核である。432は非常に小型の資料でややいびつな形状を呈するが、打面と作業面を反転させながら剥離を進めるもので、剥離技術は求心剥離型石核に近い。剥離は極限に近い状態まで進行しており、石核に観察される剥離痕の主軸長は20mm程度である。

433は小型円彫を素材とする接合資料である。剥離は極限まで進行しており自然面は一部に残るのみで、原彫のサイズは復元できない。基本的には先行剥離面を打面に目的的剥片の剥離を行っているが、残核が非常に小さく技術形態は不明である。

434～436は頁岩Ⅲ類を素材とする石核である。434は比較的薄手の剥片を素材とし、素材の主要剥離面側から打撃を加えて剥片剥離を行っている。途中で打面を反転しており、素材の主要剥離面側にも剥離痕が観察される。表裏とも打点が



第182図 第Ⅲ文化層第12ブロック第56遺物集中部出土石器実測図



第183図 第Ⅲ文化層第12ブロック遺物集中部外出土石器実測図

全周することではなく、一部に剥離が施されるのみでそのまま放棄されている。435も剥片素材の石核で平坦な先行剥離面を打面として剥離を行っている。打面の反転等は行われず、基本的に単設打面で剥離が進行しそのまま放棄されている。436はやや厚手の剥片を素材とし、素材の主要剥離面側から剥離を行うものである。打面側に作業面側からの剥離痕が複数観察されるがこれらの剥離は調整剥離を意識したものである可能性が高い。残核は円錐形を呈する。

#### 第12ブロック第57遺物集中部

第52遺物集中部と第56遺物集中部に隣接する小規模で散漫な集中部である。頁岩を素材とする剥片が少量分布するのみで石核等は抽出されていない。

#### 第12ブロック遺物集中部外（第183図：第31表）

石核2点を抽出した。

437は剥片素材の石核である。主に素材の主要剥離面側から剥離されているが打面と作業面を反転させながら剥離を進

行させる求心剥離型の石核である。ただし、素材の主要剥離面に観察される剥離は周縁を全周することなく、部分的な剥離にとどまる。接合部No123の最終石核である。

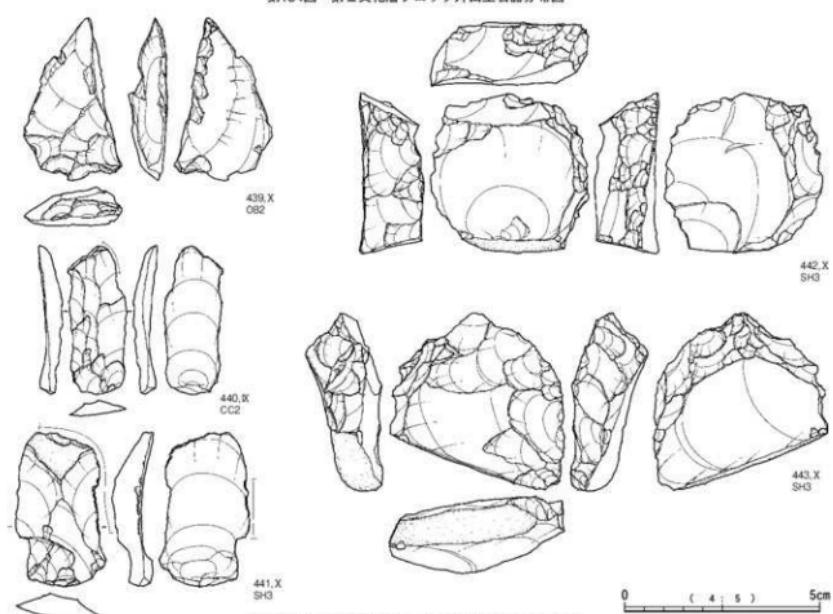
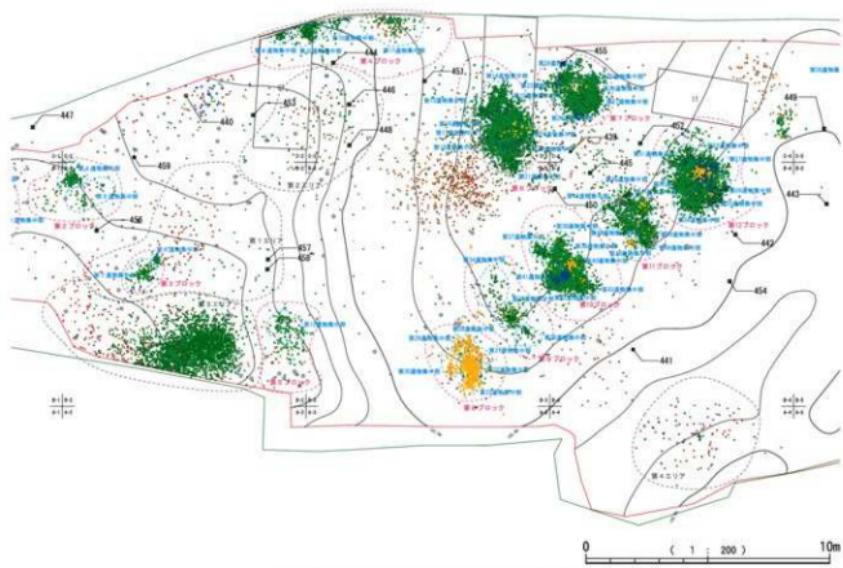
438は径6cm程の分割核を素材とするで枚数の剥離痕が観察される。目的的剥片の剥離は行われておらず、目立った整形剥離も観察されないが、石核素材として準備されたものである可能性がある。

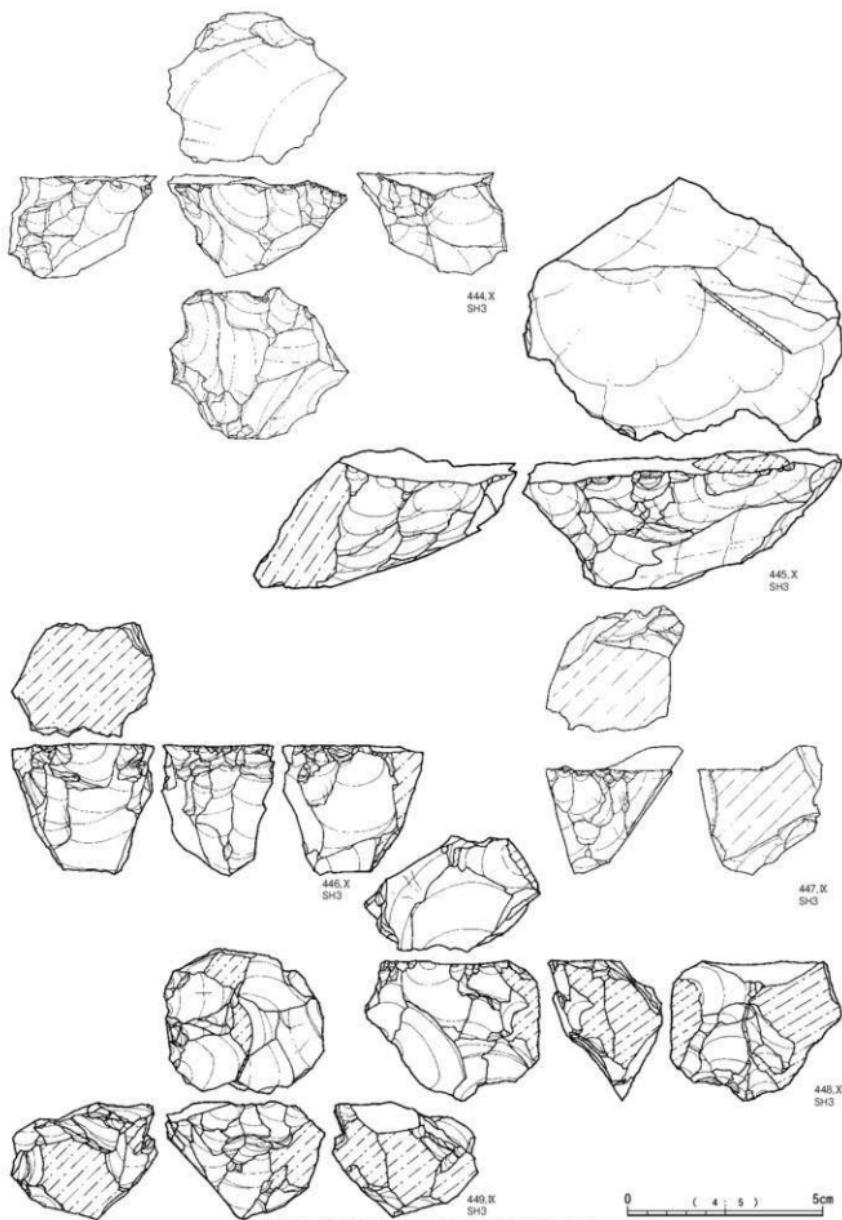
#### ブロック外出土石器（第184図～第189図；第32表）

439は削器である。黒曜石II類を素材とする。薄手の不定形剥片の側縁に二次加工を加え刃部を形成している。

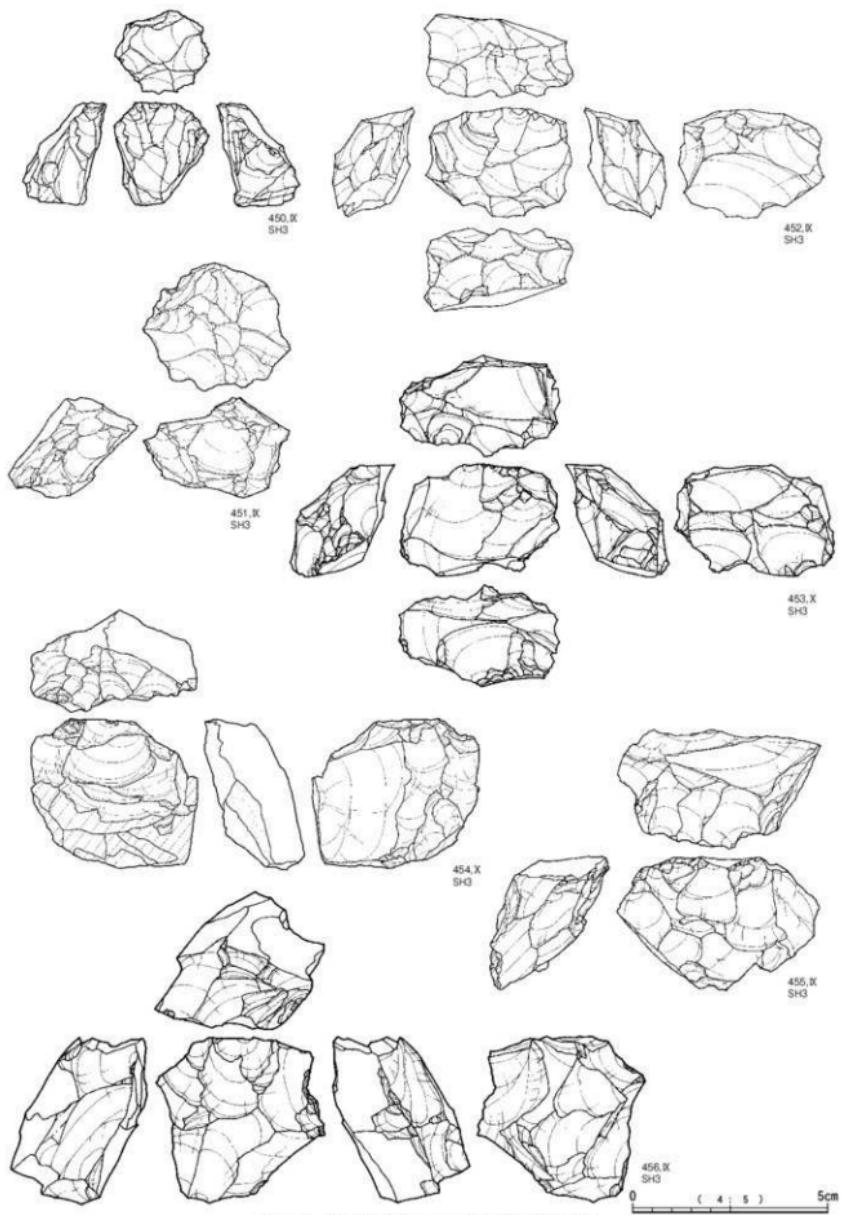
440は微細剥離痕剥片である。玉髓II類を素材とするもので、右側縁に連続的な微細剥離痕が観察される。441も微細剥離痕剥片である。頁岩III類を素材とするもので、左側縁の一部に微細剥離痕が観察される。

442は石核である。やや薄手の剥片を素材とする石核で、周縁から円形に剥離を進行させている。時折打面を反転して剥離を行っているが、反転時の剥離は周縁部にとどまり、調

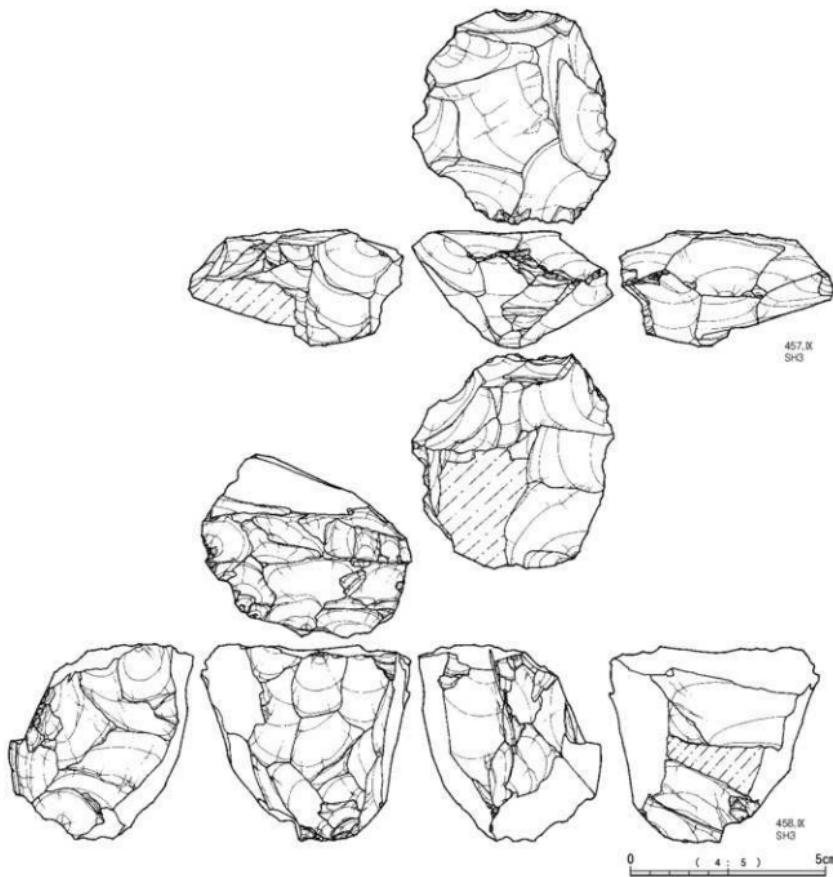




第186図 第三文化層ブロック外出土石器実測図（2）



第187図 第三文化層ブロック外出土石器実測図（3）



第188図 第三文化層ブロック外出土石器実測図（4）

整剥離の可能性が高い。443も石核で442と同様にやや薄手の剥片を素材としており、周縁部から打点移動を行ないながら剥離を進めている。途中で打面と作業面を反転させているが反転時の剥離は平坦剥離に近く、調整剥離を意図したものである可能性が高い。444も剥片素材の石核である。素材剥片の主要剥離面を打面として剥離が行われているが、打面の反転等は行われていない。石材はやや白色を呈する頁岩で、遺跡内で多用される石材とは異なるものであり、遺跡外からの搬入品の可能性がある。445も石核である。比較的大型の状態で放棄されている。やや薄手の剥片を素材とし、素材剥片の端部側から剥離を進めている。

446,447は分割標素材の石核である。平坦な分割面を打面として剥片剥離が行われるもので、径3cm程と小型の資料で

あるが作業面の反転等は行われず、最後まで同一打面からの剥離を継続している。極限に近い状態まで剥離が継続され放棄されたものとみられる。

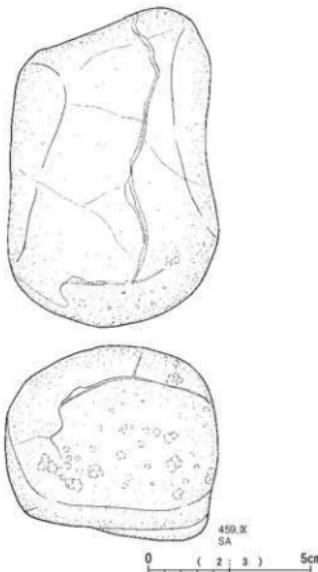
448,449は素材は不明であるが、径3cm程と極限に近い状態まで剥離が施された石核である。側面及び背面に自然面を多く残すことから、分割標素材の可能性が高い。打面と作業面を反転させながら剥離を行うタイプの石核である。

450~456も石核である。いずれもかなり剥離が進んでおり小型化している。最終段階で打面と作業面を反転させながら剥離を行っているものが多い。

457も石核である。径5cm程とやや大きめであるが打面と作業面を反転させながら剥離を行っている。残核は亀甲状を呈する資料である。

458は比較的大型の石核である。打面を転回しながら先行剥離面を打面として剥離を進めているが、径5cm程度とやや大型の状態で放棄されている。

459は敲石である。拳大の砂岩礫を素材とする。先端部に敲打痕が観察される。



第189図 第Ⅲ文化層ブロック外出土石器実測図(5)

第32表 第Ⅲ文化層ブロック外出土石器観察表

標本No.	刃No.	鉋上No.	横幅	Y座標	Z座標	フローラ	集中部	部位	分類I	分類II	分類III	EH1:	EH2:	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	量測点	参考
185	459	40000	19.919	30.345	143.498	A07	-	X 破片	SH2	-	40.5	24.5	10.2	6.2	93083_A1			
	440	33192	22.227	14.570	143.124	A02	-	X 剥離剥離剥片	SH2	-	37	14.9	6.4	1.97				
	441	61000	11.830	32.918	143.047	A05	-	X 剥離剥離剥片	SH3	-	38.5	22.7	11	5.74	SG191_A2			
	442	49500	16.526	37.117	143.248	A09	-	X 破片	SH3	-	39.8	39.4	16.7	33.26	組合資No124_G1			
	443	40629	17.793	40.855	143.235	A11	-	X 二次加工剥片	SH3	-	19.4	44.3	45.1	34.1				
186	444	50072	23.574	20.616	142.990	A05	-	X 破片	SH3	-	25.7	44.6	38.8	34.62				
	445	40001	19.064	31.150	143.469	A07	-	X 破片	SH3	-	35.1	79.4	67.7	143.95	SG102_M1			
	446	23027	21.867	21.260	143.237	A05	-	X 破片	SH3	-	32.4	35.1	29.5	39.17	組合資No122_B1			
	447	37534	20.932	8.287	143.030	A01	-	X 破片	SH3	-	32	33.9	32.3	24.83				
	448	22825	20.197	21.279	143.216	A05	-	X 破片	SH3	-	35.2	43.6	30	37.97				
187	449	29703	20.874	40.752	143.566	B13	C59	X 破片	SH3	-	29.5	38.8	37.3	47				
	450	27836	18.421	29.702	143.711	A07	-	X 破片	SH3	-	25.8	23.8	21.5	11.06				
	451	32106	22.825	24.966	143.343	A07	-	X 破片	SH3	-	24.8	36	32.9	21.5				
	452	26940	20.273	33.208	143.500	A07	-	X 破片	SH3	-	27.2	36.3	21.3	20.88				
	453	25942	21.427	17.326	143.083	A02	-	X 破片	SH3	-	27.9	39.9	26.3	30.92				
188	454	56690	14.623	36.879	143.224	A09	-	X 破片	SH3	-	37.2	41.5	26.3	33.51				
	455	28432	23.540	30.028	143.459	A07	-	X 破片	SH3	-	33.2	49.8	30.7	39.77	組合資No147_D1			
	456	29900	16.701	10.906	143.917	A01	-	X 破片	SH3	-	41.4	42.1	35.5	51.15	組合資No147_D1			
	457	22097	15.517	17.941	143.002	A03	-	X 破片	SH3	-	29.3	50.1	56.2	77.65	組合資No147_M1			
	458	22101	15.109	17.916	143.002	A03	-	X 破片	SH3	-	49	52.3	47.2	125.13	組合資No147_D1			
189	459	32223	19.706	12.448	143.016	A02	-	X 破片	SA	-	94.5	63	60	580				

## 第2節 接合資料

第Ⅲ文化層では、接合作業の結果、約650個体に上る接合資料が得られた(第190図)。結果、ほぼ全てのブロック間で接合関係をもち、ブロック間関係やブロック内での遺物集中部の形成過程の検討が可能な良好な資料が多数得られた。

ここでは、これらの接合資料のうち、剥離技術が検討可能な石核接合資料やナイフ形石器等を含む接合資料を中心に、105個体を図化し掲載する。

掲載にあたっては、便宜的に分布図上から各接合資料が主に分布するブロックまたは遺物集中部を特定し、各ブロックまたは各集中部毎に資料を掲載する。

なお、接合資料の表記に関しては、あらかじめ剥離工程を観察し、分布図、表、文章等に剥離順を記号化して掲載した。実測図、写真、分布図等には、この剥離順記号を示し、接合線図についても観察に基づく剥離順により結線した。詳細な記載方法等については、第Ⅲ章第3節を参照されたい。

この他、代表的な資料については、第1節に掲載した以外の構成剥片実測図を第428図～第453図に示した。

### 第1ブロック

4点の資料を抽出した。これらは、白色の節理が発達し比較的珪質に富む良質な個体を素材とするものであり、同一母岩の可能性が高い。

#### 接合資料No32（第191図～第192図）

拳大の石核素材に整形剥離を加え、目的的剥片の剥離を行う接合資料である。節理面または先行剥離面を打面に利用

し、石核を転回しながらやや大きめの剥離により石核整形を行っている。径4cmほどの状態で目的的剥片剥離段階へ移行している。目的的剥片の剥離は平坦な先行剥離面を打面として行われているが、この段階においても数回の打面転移を繰り返しながら残核が扁平になるまで剥離を続いている。石核は極限に近い状態まで剥片剥離が継続され、放棄されたものとみられる。

剥片L2が第10ブロック第40遺物集中部から出土した。

#### 接合資料No33（第193図）

接合資料No32と同一母岩の可能性が高い資料である。幅10cm程度の分割剥片を素材とし、分割面を打面として石核整形を行い、途中で目的的剥片の剥離段階へ移行している。

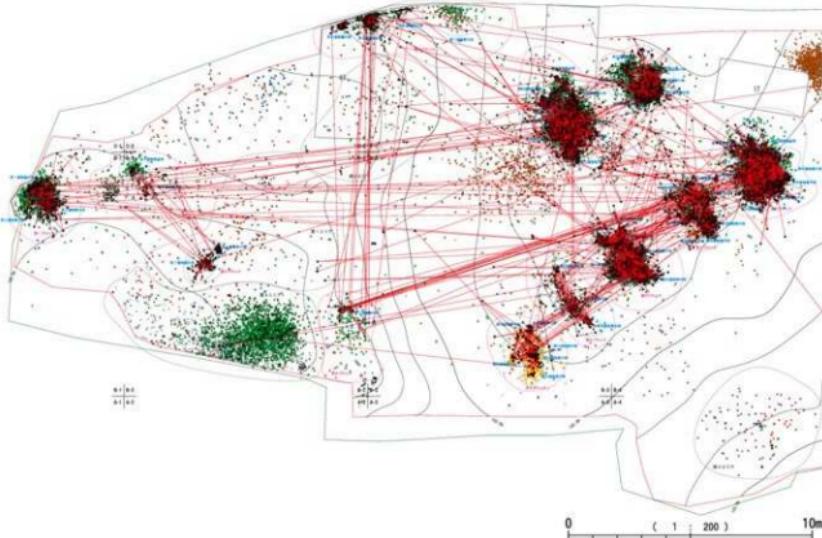
剥離された剥片の主軸長は4cm前後であるが、石核整形段階の剥離はやや大きめの剥離が多く、目的的剥片剥離段階の剥片は概ね主軸長3cm前後である。

#### 接合資料No34（第194図）

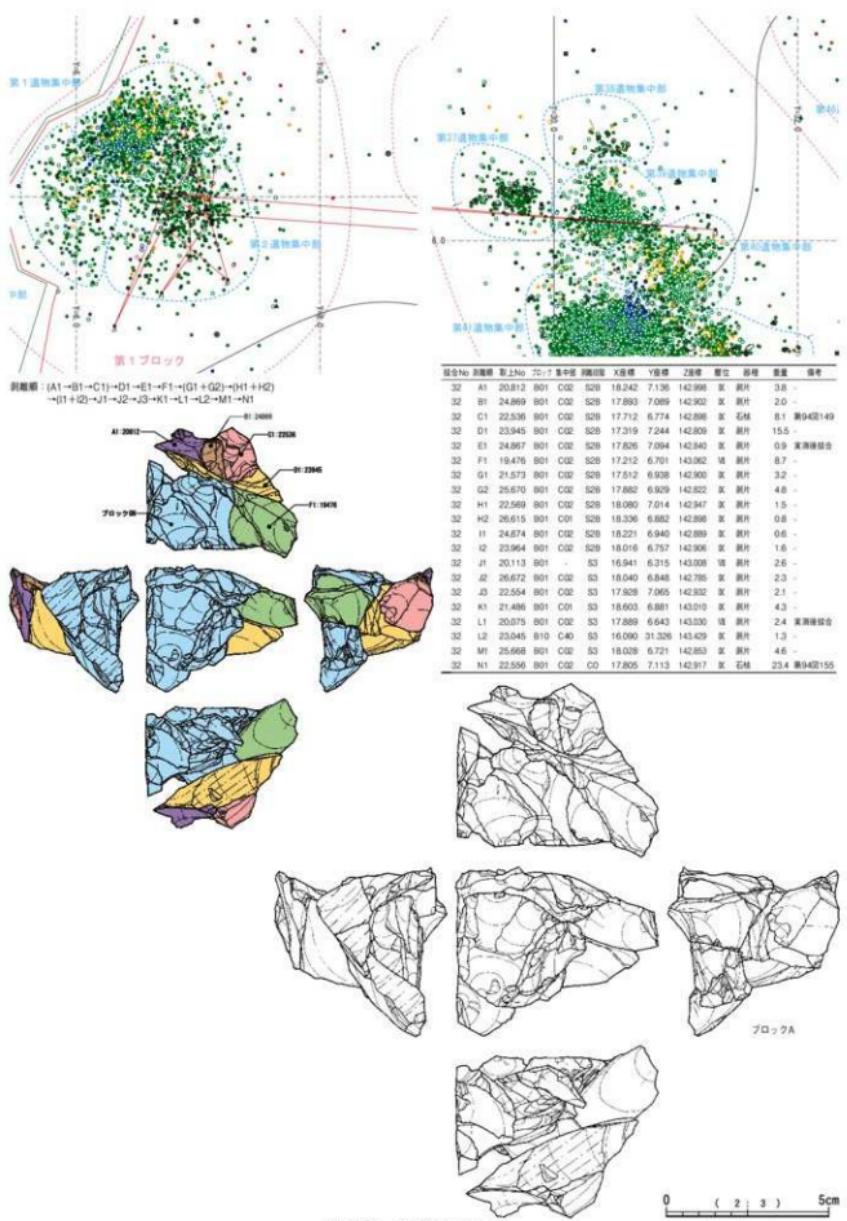
径3cmほどの小型の石核接合資料である。残核が非常に小型で扁平な形状を呈するのが特徴で、剥離がほぼ極限まで達しているものとみられる。残核に残された目的的剥片の主軸長は2cm未満と極めて小さい。最終段階の剥離は求心的になり、途中で打面と作業面を反転させて剥離を継続している。扁平な形状であるが、残核は亀甲状を呈する。

#### 接合資料No35（第195図）

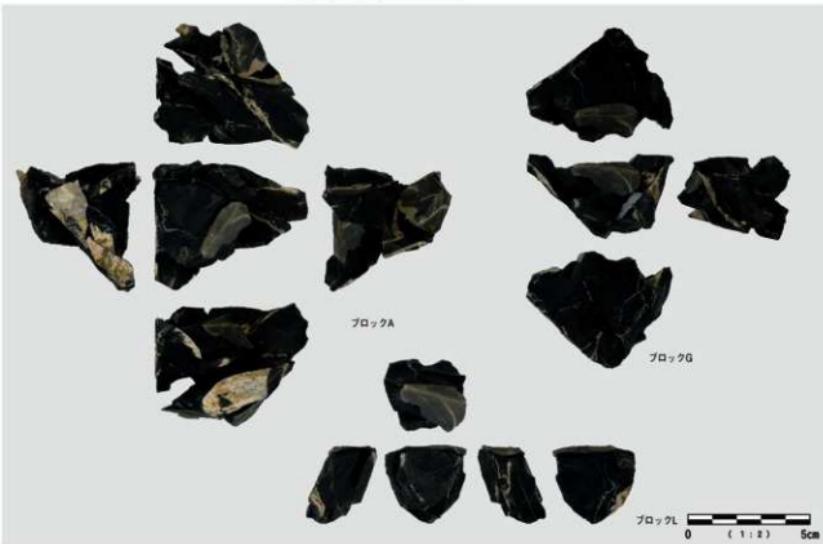
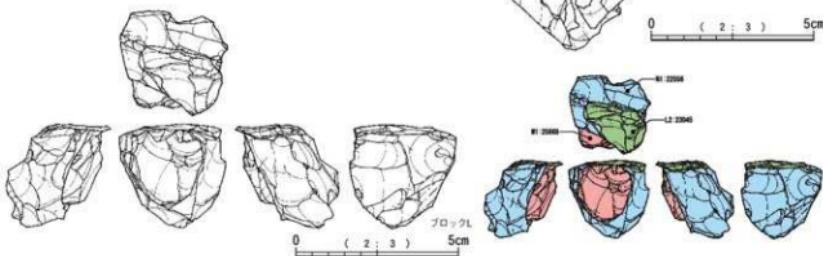
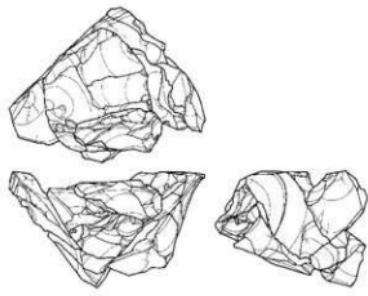
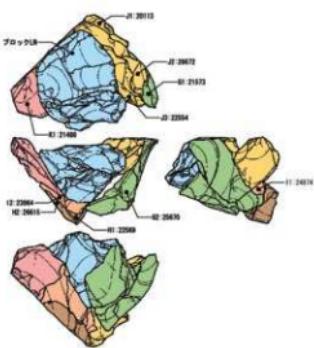
剥片素材の石核接合資料である。主軸長4cm前後の剥片を



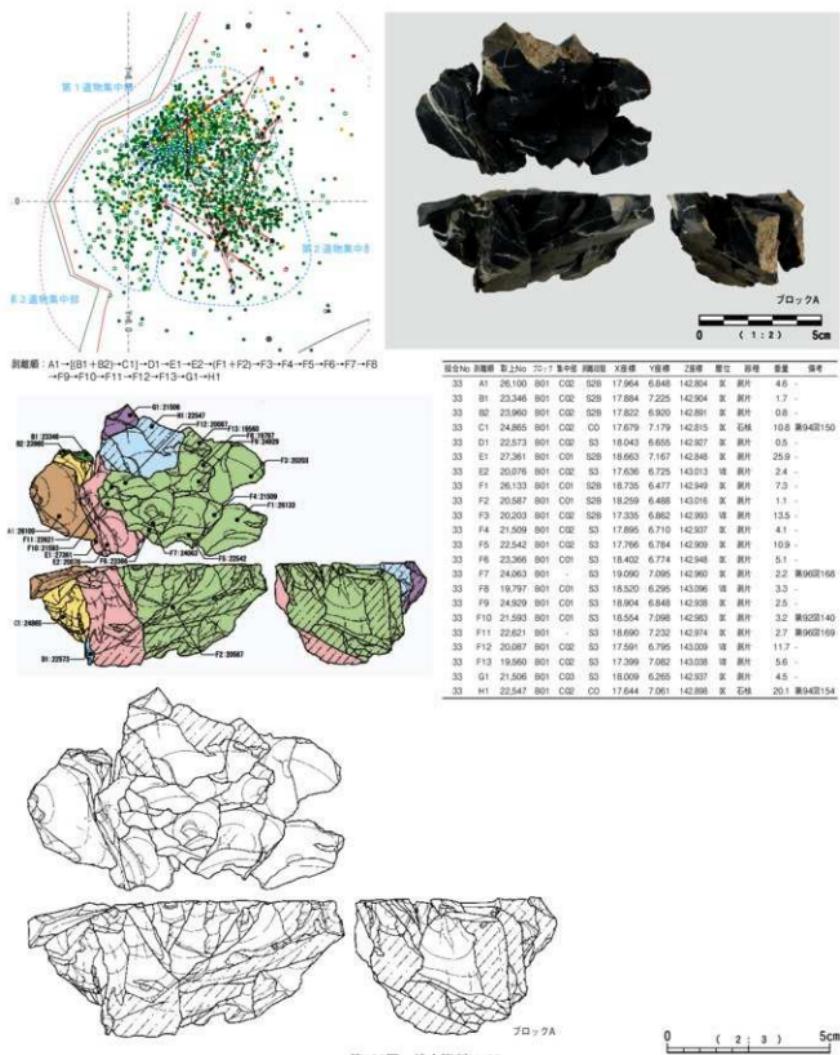
第190図 第Ⅲ文化層接合状況図



第191図 接合資料No32 (1)



第192図 接合資料No32 (2)



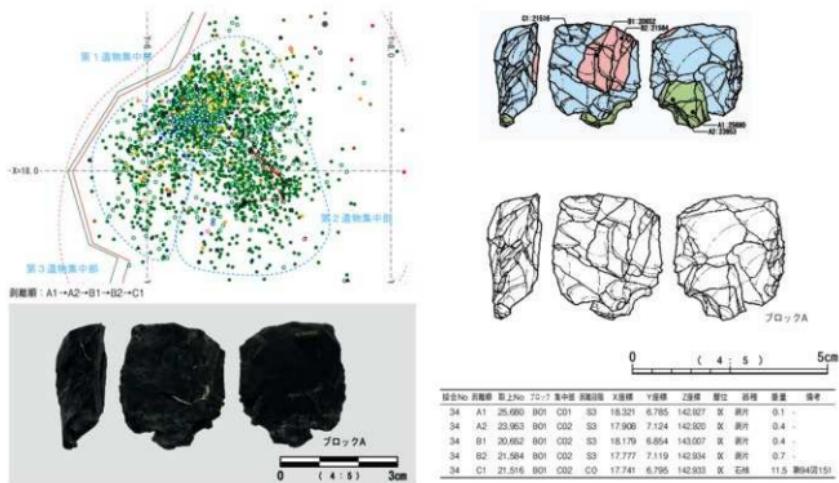
第193図 接合資料No33

素材として、基本的には素材の主要剥離面側から剥離を行っている。剥離の途中で打面を反転しているが、主要剥離面側に見られる剥離は周縁部にとどまり、調整剥離的な意味合いが強い。

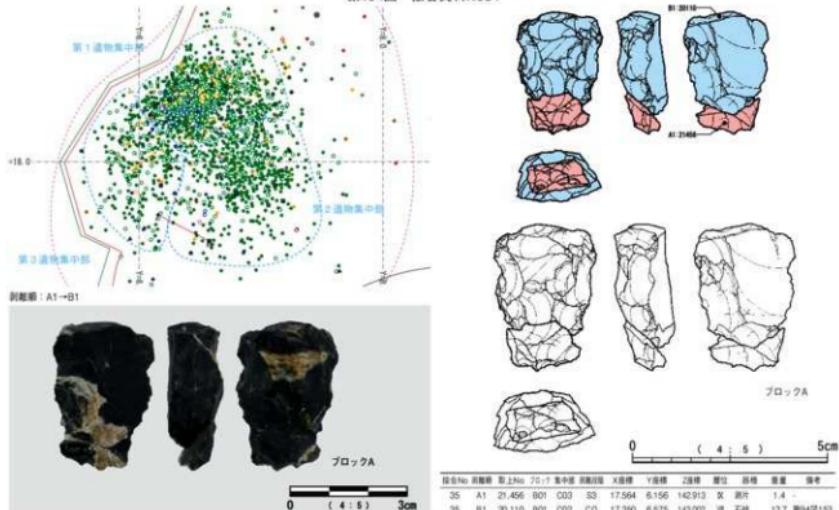
最終段階では非常に細かい剥離が連続的に施され、搔器として利用されている可能性が高い。

## 第2ブロック

第2ブロックは第4遺物集中部を中心に頁岩を素材とする遺物集中部が形成されている。1.7kg程度の大型石核（第98回171）と、小型の石核（第98回172）が組成されるものの、良好な接合資料は得られていない。後述する第3ブロックから、第5遺物集中部はかに数点の搬入がみられる。



第194図 接合資料No34



第195図 接合資料No35

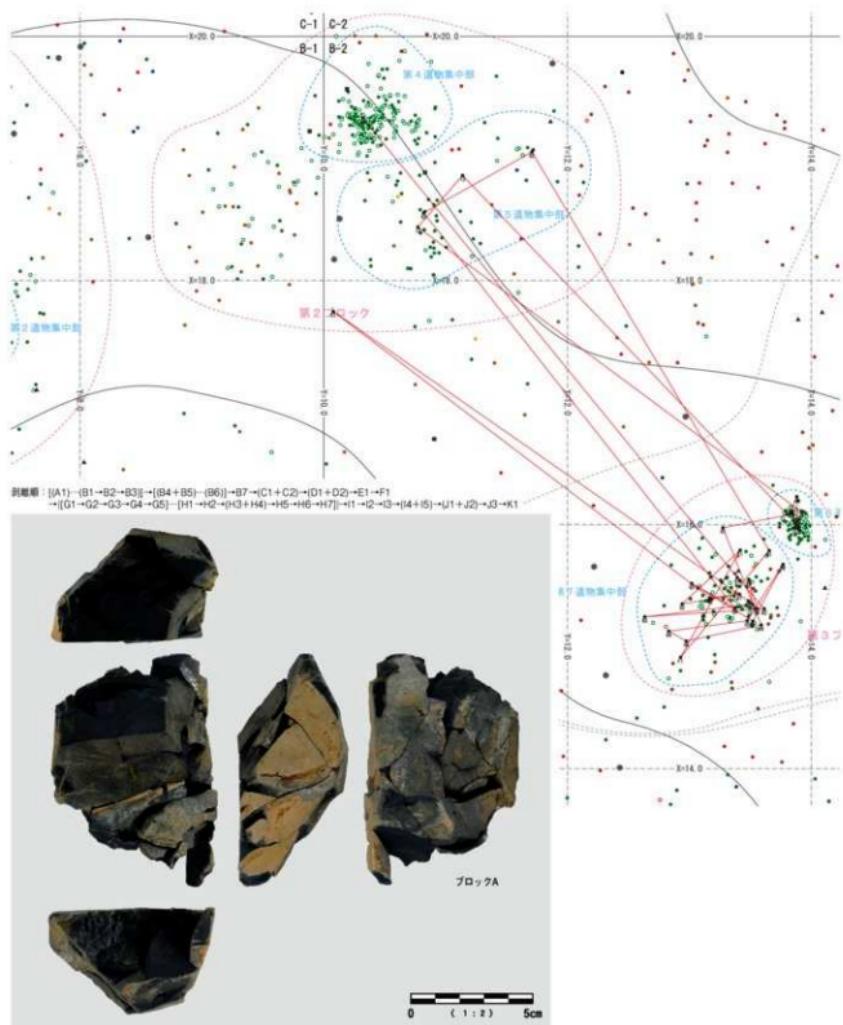
### 第3ブロック

2個体を抽出した。両者は数枚の間隔を置いて接合する可能性が高く、同一母岩と判断される。

### 接合資料No36（第196図～第199図）

拳大の分割縫を素材とする石核接合資料である。節理面ないし分割面を打面として、石核を転回しながら整形剥離を加

えた後に目的的剥片の剥離を行っている。目的的剥片の剥離は、基本的には平坦な先行剥離面を打面として行われている。時折石核を転回して打面転移を行うものの、調整剥離を意図する場合や、目的的剥片を意図したとみられる場合でも剥離が数枚にとどまるケースが多く、作業面は安定しない。最終的段階では打面直下が潰れ、適切な作業面角度を維持できなくなり放棄されたものとみられる。



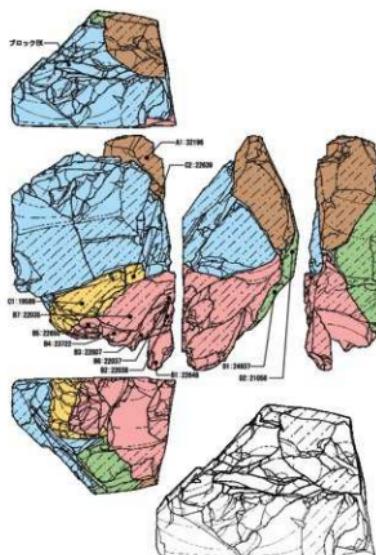
第196図 接合資料No36 (1)

接合資料No37 (第200図)

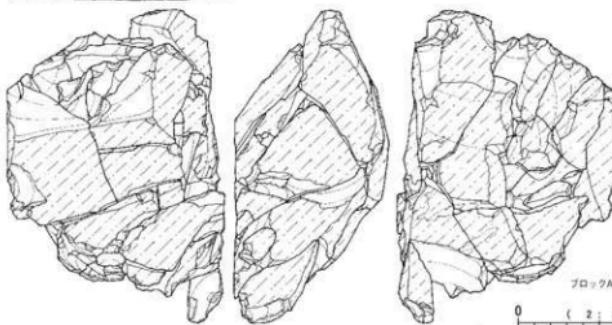
剥片を主体とする接合資料である。石核素材は分割礫と思われ、節理面を打面として主軸長3cm程度の剥片が剥離されている。石核素材の縁辺部に近く、初期段階の剥離は背面や底面に自然面ないし節理面を残す。節理面の位置や方向、自然面の特徴から、接合資料No36と同一母岩であると判断される。接合資料No36の剥離初期段階の接合資料である可能

性が高い。

なお、22048は縁辺の一部に二次加工があり、小型ナイフ形石器または小型台形石器の可能性があるが、プランティングが必ずしも明瞭でなく、類似資料もないため、ここでは二次加工剥片として取り扱っておく。



接合No	岩種類	取上No.	70-17	集中番	調査回数	X座標	Y座標	Z座標	部位	面積	面積	備考
36	A1	32,196	802	C04	S28	19,331	10,320	143,011	X 面片	18.9	-	
36	B1	22,648	803	C07	S28	15,566	13,939	142,876	X 面片	2.7	-	
36	B2	22,038	803	C07	S28	15,309	13,615	142,814	X 面片	0.3	-	
36	B3	22,007	803	C07	S28	15,244	12,654	142,854	X 面片	19.2	-	
36	B4	23,722	803	C07	S28	15,346	13,519	142,866	X 面片	0.8	-	
36	B5	22,660	803	C07	S28	15,548	13,488	142,872	X 面片	1.9	-	
36	B6	22,037	803	C07	S28	15,311	13,555	142,886	X 面片	0.3	-	
36	B7	22,035	803	C07	S28	15,374	13,484	142,876	X 面片	12.1	-	
36	C1	19,588	802	-	S28	17,745	10,680	143,143	側 面片	9.0	-	
36	C2	22,639	803	C07	S28	15,399	13,169	142,840	X 面片	0.5	-	
36	D1	24,937	803	C07	S28	15,429	13,411	142,765	X 面片	2.5	-	
36	D2	21,056	803	C07	S28	15,349	12,941	143,035	X 面片	5.4	-	



接合No	岩種類	取上No.	70-17	集中番	調査回数	X座標	Y座標	Z座標	部位	面積	面積	備考
36	E1	22,047	803	C07	S28	15,700	13,471	142,888	X 面片	18.3	-	
36	F1	22,409	803	C07	S28	14,912	12,928	142,898	X 面片	5.8	-	
36	G1	22,049	803	C07	S28	15,787	13,655	142,903	X 面片	9.1	-	
36	G2	29,905	802	C06	S28	19,053	11,700	143,029	X 面片	6.6	-	
36	G3	28,824	802	C07	S3	18,558	10,820	143,003	X 面片	1.0	-	
36	G4	24,905	803	C07	S3	15,315	13,374	142,763	X 面片	0.5	-	
36	G5	19,627	803	C07	S3	15,518	13,019	143,233	側 面片	0.3	-	
36	H1	22,668	803	C07	S3	15,208	13,521	142,881	X 面片	3.4	-	
36	H2	22,663	803	C07	S3	15,674	13,769	142,792	X 面片	3.1	-	
36	H3	21,413	803	C07	S3	15,212	13,475	142,966	X 面片	3.5	-	
36	H4	22,005	803	C07	S3	15,126	12,851	142,873	X 面片	1.9	-	
36	H5	21,410	803	C07	S3	15,048	12,974	142,904	X 面片	0.9	-	
36	H6	23,719	803	C07	S3	15,177	13,589	142,841	X 面片	0.9	-	
36	H7	21,418	803	C07	S3	15,974	13,275	142,931	X 面片	14.2	-	



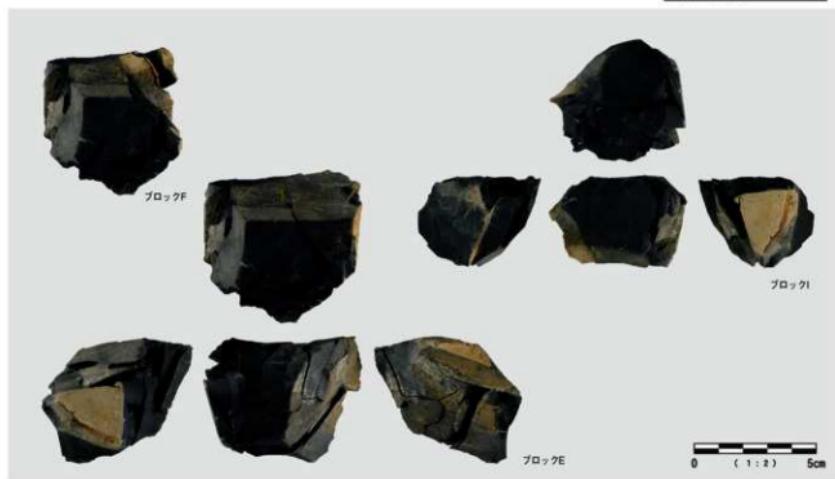
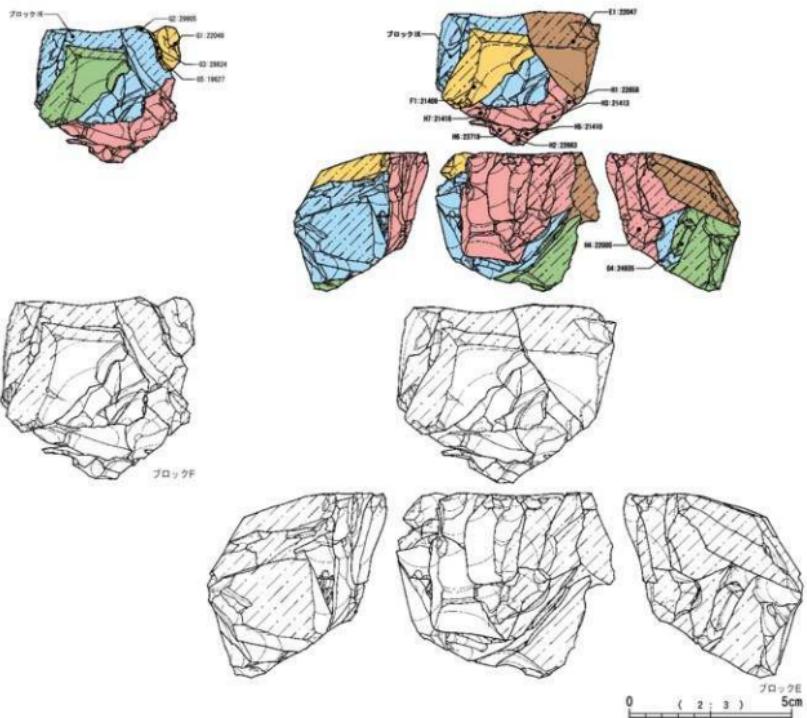
接合No	岩種類	取上No.	70-17	集中番	調査回数	X座標	Y座標	Z座標	部位	面積	面積	備考
36	H1	22,063	803	C06	S29	16,100	13,924	142,923	X 面片	12.0	-	
36	H2	29,911	802	C05	S3	18,437	10,772	142,989	X 面片	3.7	-	
36	H3	32,215	802	C05	S3	18,861	11,139	142,977	X 面片	3.2	-	
36	H4	24,916	803	C06	S3	15,988	13,897	142,801	X 面片	5.0	-	
36	H5	26,266	803	C06	S3	15,972	13,857	142,897	X 面片	1.3	-	
36	H6	24,972	803	C06	S3	16,036	13,892	142,793	X 面片	2.6	-	
36	H7	24,975	803	C06	S3	15,967	13,892	142,814	X 面片	1.7	-	
36	H8	22,676	803	C06	S3	16,229	13,881	142,933	X 面片	2.3	-	
36	K1	23,733	803	C06	C0	16,104	13,835	142,892	X 面片	77.2	集中番17	

第197図 接合資料No36 (2)

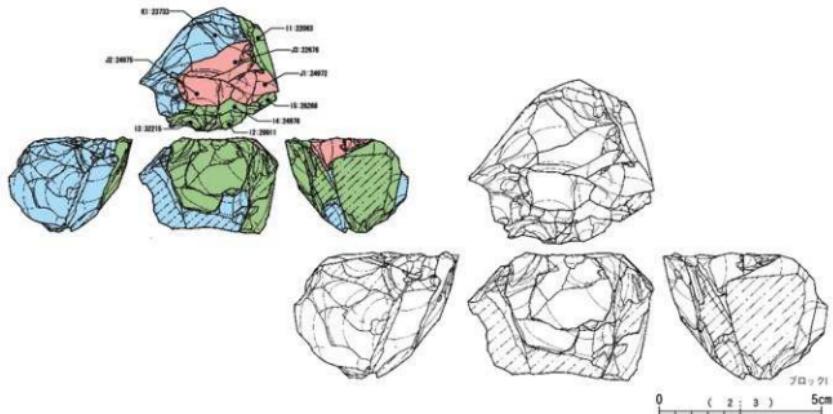
#### 第4ブロック

5個体の資料を抽出した。拳大の分割縫を素材とするもので、やや大きめの剥離により石核整形を行い、その後目的的剥片剥離段階へ移行するものである。

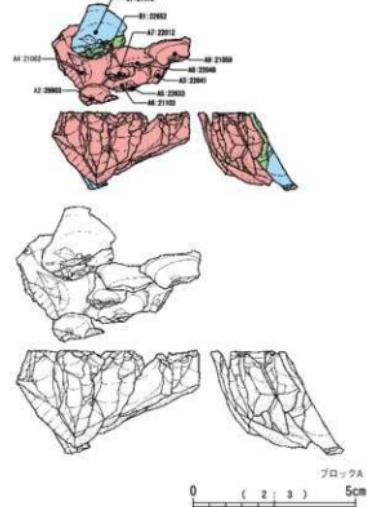
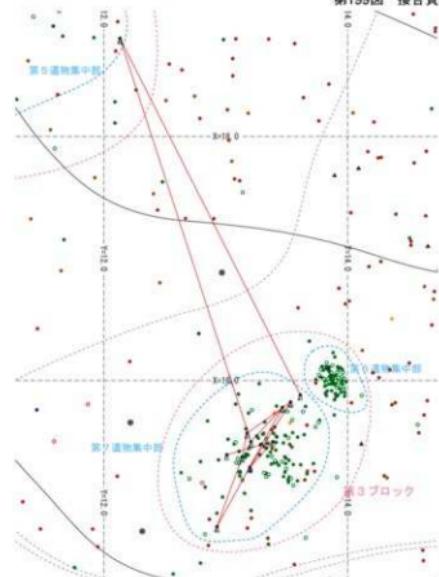
石材は接合資料No38と接合資料No40及び接合資料No42が節理があり発達しない黒色頁岩、接合資料No41と接合資料No39がやや珪質分に富み、白色の節理が発達する石材を利用する。各々同一母岩の可能性が高い。



第198図 接合資料No36 (3)

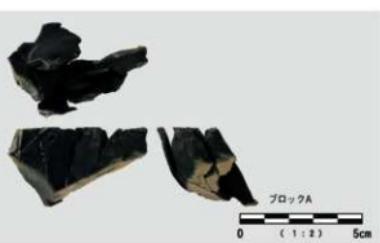


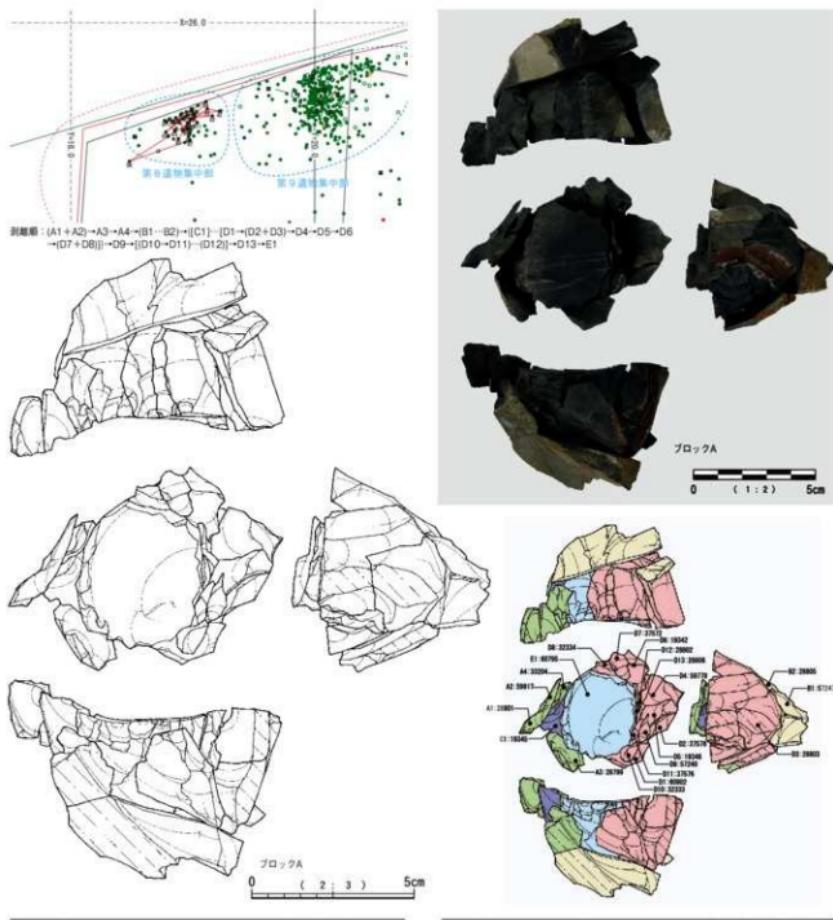
第199図 接合資料No36 (4)



距離表：A1→(A2→A3)→A4→A5→A6→A7→A8→A9→(B1→C1)									
	基点名	距離	上界	下界	集計	測量	基準	基準	備考
37	A1	21,111	B03	C07	S3	15.881	13.612	143.022	X 割れ
37	A2	29,900	B02	C02	S3	18.804	12.132	143.042	X 割れ
37	A3	22,641	B03	C01	S3	15.498	13.207	142.853	X 割れ
37	A4	21,062	B03	C07	S3	15.779	13.465	143.059	X 割れ
37	A5	22,630	B03	C07	S3	14.802	12.923	142.734	X 割れ
37	A6	21,103	B03	C07	S3	15.374	13.135	143.011	X 割れ
37	A7	22,012	B03	C07	S3	15.569	13.176	142.888	X 割れ
37	A8	22,048	B03	C07	S3	15.823	13.532	142.787	X 割れ
37	A9	21,059	B03	C07	S3	15.268	13.188	143.054	X 割れ
37	B1	22,652	B03	C07	S3	15.499	13.388	142.875	X 割れ
37	C1	21,416	B03	C07	S3	15.391	13.009	142.918	X 割れ

第200図 接合資料No37





接合No	岩種類	取上No	厚さ	集中番	剥離面	X座標	Y座標	層位	岩相	重量	備考
38-A1	28.801	804	C08	S28	25.259	19.002	143333	X	剥片	1.5	-
38-B2	59.917	804	C08	S28	25.274	19.220	143188	X	剥片	1.3	-
38-A3	28.799	804	C08	S28	25.294	19.119	143207	X	剥片	3.5	-
38-A4	33.203	804	C08	S3	25.174	18.955	143272	X	剥片	2.2	-
38-B1	57.247	804	C08	S28	25.238	19.014	143213	X	剥片	38.3	-
38-B2	28.800	804	C08	S28	25.048	18.862	143115	X	剥片	0.8	-
38-C1	19.345	804	C08	S3	25.116	18.652	143391	X	剥片	3.4	-
38-D1	60.902	804	C08	S28	25.197	18.769	143137	X	剥片	4.4	-
38-D2	37.578	804	C08	S28	25.238	19.161	143248	X	剥片	2.4	-
38-D3	28.803	804	C08	S28	25.243	18.901	143346	X	剥片	9.5	-
38-D4	59.778	804	C08	S28	25.352	19.109	143221	X	剥片	10.0	-

第201図 接合資料No38

## 第4 ブロック第8集中部

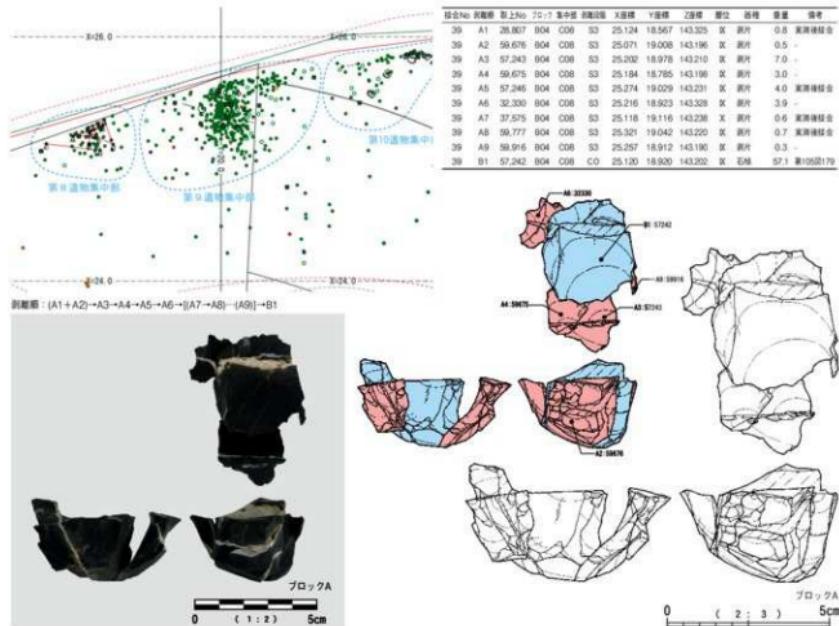
2点の接合資料を資料化した。いずれも、平坦な先行剥離面を単設打面として目的的剥片の剥離を行うものである。

接合No	岩種類	取上No	厚さ	集中番	剥離面	X座標	Y座標	層位	岩相	重量	備考
38-05	19.346	804	C08	S3	25.175	18.970	143345	X	剥片	1.9	-
38-06	19.342	804	-	-	24.663	18.480	143347	X	剥片	5.5	-
38-07	37.572	804	C08	S3	25.096	18.978	143222	X	剥片	2.2	-
38-08	32.334	804	C08	S3	25.067	18.966	143277	X	剥片	2.9	-
38-09	57.240	804	C08	S3	25.221	18.861	143240	X	剥片	1.3	-
38-D10	32.333	804	C08	S3	25.125	18.955	143279	X	剥片	1.9	-
38-D11	37.576	804	C08	S3	25.181	19.037	143246	X	剥片	1.8	-
38-D12	28.802	804	C08	S3	25.237	18.955	143306	X	剥片	1.9	-
38-D13	28.806	804	C08	S3	25.103	18.779	143304	X	剥片	1.1	-
38-E1	60.795	804	C0	-	25.289	18.992	143184	X	石柱	72.7	W1050178

## 接合資料No38（第201図）

拡大資料No38（第201図）

拡大資料No38は、接合資料No38（第201図）の拡大版である。平坦な分割面を打面としてやや大きめの剥離によって周縁から石核整形を行い、径5cm程の段階から目的的剥片の剥離段階へ移



第202図 接合資料No39

行している。目的的剥片の主軸長は3cm程度である。

打面転移等は行わず、平坦な分割面の周縁に沿って順次打点移動を行なうながら剥片剥離を行っている。残核は底状を呈する。

#### 接合資料No39（第202図）

平坦な分割面を打面として石核整形剥離から目的的剥片の剥離へ連続的に移行する石核接合資料である。石核素材は分割剝離とみられる。石核素材は分割面で節理に大きく影響されて段差を持っているが、これを除去しようとする痕跡は見受けられない。縁辺の一部を順次打点移動しながら剥片剥離を行っている。素材形状の規制により打点移動が周縁を全周することはないものの、打面転移等も看取されず、剥離技術においては接合資料No38によく似た資料である。

#### 第4ブロック第9集中部

3点の資料を抽出した。本集中部の資料は、構成剥片等が広範囲に移動することが多い。

#### 接合資料No40（第203図）

拳大のおそらく分割剝離を素材とする石核である。節理面に沿って剥離した厚さ5cm程度の素材を利用し、やや大きめの剥離によって周縁部の整形を行った後に打面形成を行い、目

的的剥片剥離段階へと移行している。

目的的剥片剥離段階では、数枚の剥離を一単位として打面再生と打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行っている。目的的剥片の主軸長は4~5cm程度のものが多い。主軸長4cm程度の薄手の剥片の一部が第5ブロックから出土した。

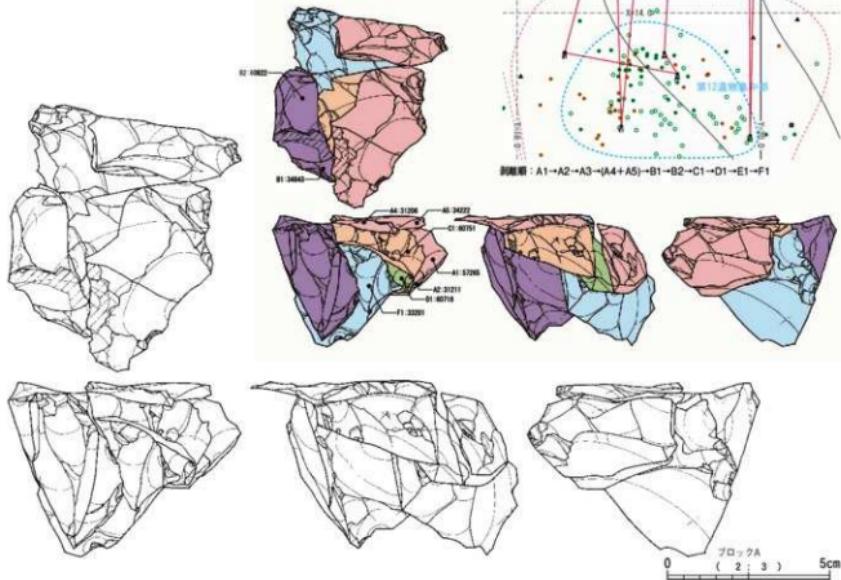
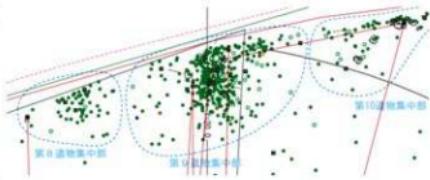
#### 接合資料No41（第204図）

分割剝離辺部で剥離された剥片等の接合資料である。平坦な分割面または節理面を打面として剥離が行われている。剥離の初期段階では主軸長4cm程度の剥離が目立つが、自然面の除去が終わると打面を反転して目的的剥片の剥離を行っているようである。最終段階では再度打面と作業面を反転し、主軸長3cm程の小型の剥片を剥離している。剥片B1とC1が第5ブロックから出土している。

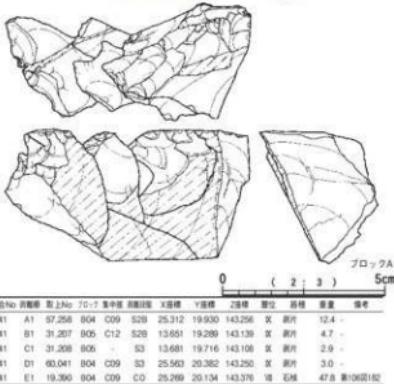
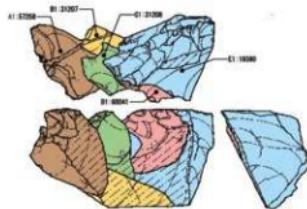
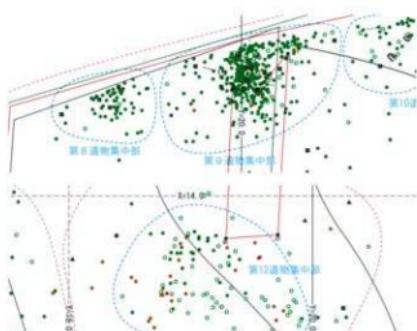
#### 接合資料No42（第205図）

剥片素材の石核接合資料である。背面に自然面を残す幅7cm程度の横広剥片が接合しており。元来は原縁辺部の整形剥片を素材としている可能性が高い。石核は形状が亀甲状を呈する小型のもので目的的剥片剥離段階の剥片は接合していない。かなり広い範囲で接合しており、剥片は第11ブロック第44遺物集中部と第7ブロック付近、石核は第4ブロック第9遺物集中部で出土した。

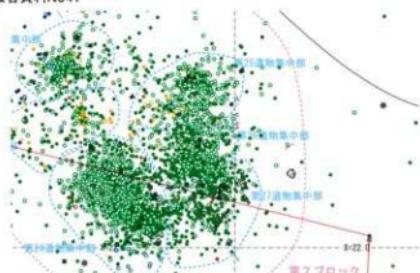
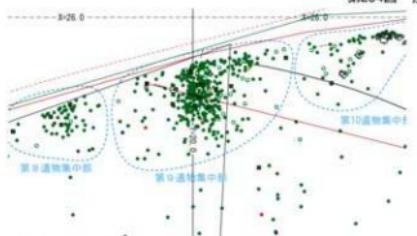
番号	測量番号	測量日	上地層	下地層	測量位置	X座標	Y座標	Z座標	層位	断面	重量	備考
40	A1	57.265	B04	C09	S29	25.640	20.177	143.049	X 断片		14.3	
40	A2	31.211	B05	C12	S29	12.994	19.912	143.191	X 断片		3.5	-
40	A3	57.259	B04	C09	S29	25.347	19.882	143.287	X 断片		1.1	実測接合
40	A4	31.200	B05	C12	S29	13.673	19.208	143.138	X 断片		3.5	-
40	A5	34.222	B05	C12	S29	13.550	19.315	143.096	X 断片		5.8	-
40	B1	34.843	B05	-	S29	13.673	18.391	142.967	X 断片	8.4	第11遺跡203	
40	B2	60.822	B04	C10	S28	25.834	21.817	143.157	X 石核	49.1	第10遺跡195	
40	C1	60.751	B04	C09	S28	25.537	20.127	143.022	X 断片	23.4	-	
40	D1	60.718	B04	C09	S28	25.361	20.015	143.219	X 断片	4.4	-	
40	E1	34.842	B05	C12	S3	13.073	18.855	143.038	X 断片	4.5	実測接合	
40	F1	33.201	B04	C08	CO	25.065	18.523	143.250	X 石核	60.0	第10遺跡176	



第203図 接合資料No40



第204図 接合資料No41



総合No											岩相	剖面No	上No	下No	集付番	層付番	X座標	Y座標	Z座標	厚さ	測定	基盤	備考
41	A1	57.258	B04	C09	S28	25.312	19.930	143.256	X	薄片		41	70.1	-	-	-	12.4-						
41	B1	31.267	B05	C12	S28	13.651	19.289	143.139	X	薄片		41	-	-	-	-	4.7-						
41	C1	31.208	B05	-	S3	13.681	19.716	143.108	X	薄片		41	-	-	-	-	2.9-						
41	D1	60.041	B04	C09	S3	25.563	20.382	143.250	X	薄片		41	80.4	-	-	-	3.0-						
41	E1	19.390	B04	C09	CO	25.260	20.134	143.376	培	石核		41	97.8	100	101	102	47.8	厚	0.06m	181			

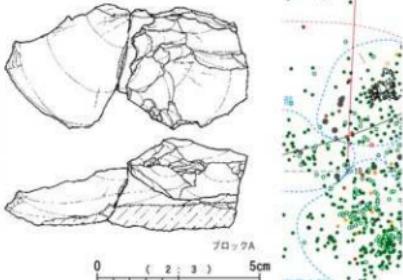
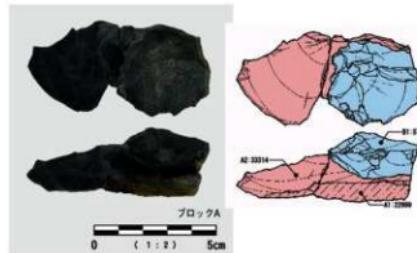
剖面順: (A1+A2)→B1

総合No 岩相 剖面No 上No 下No 集付番 層付番 X座標 Y座標 Z座標 厚さ 測定 基盤 備考

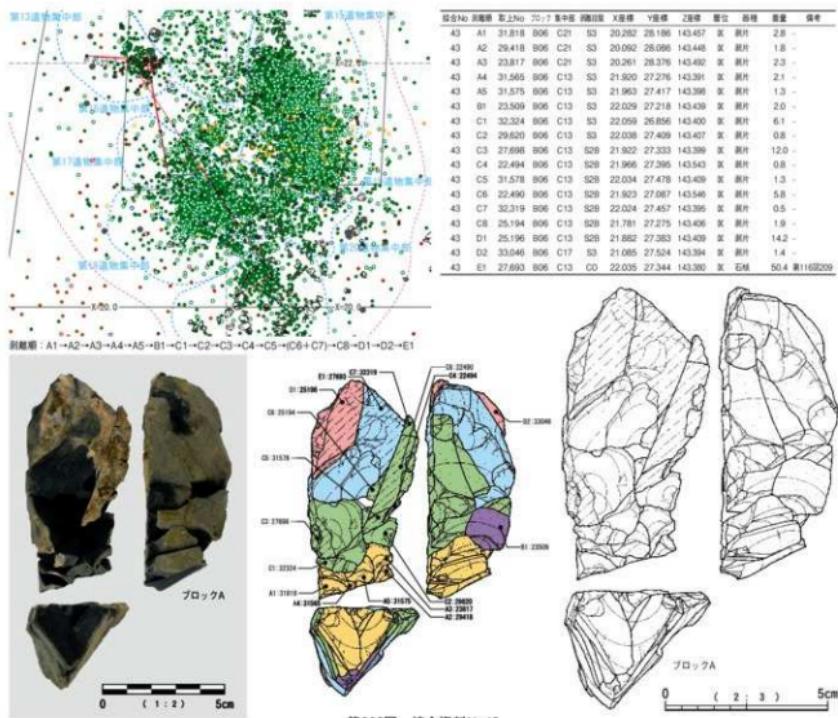
A1 22.990 B11 C44 S2A 18.064 32.915 143.442 X 薄片 17.7 -

A2 33.314 A07 - S2A 22.096 33.105 143.551 X 薄片 13.2 -

B1 57.251 B04 C09 S3 25.456 19.622 143.248 X 石核 22.3 厚 0.06m 181



第205図 接合資料No42



### 第5ブロック

抽出された接合資料はなかった。第5ブロックでは頁岩を主体とする遺物集中部が形成されてはいるものの、本ブロックを主体とする石器製作行為は希薄である。

ただし、やや距離のある第4ブロックや第12ブロックを主体とする接合資料の一部が、本ブロックから出土しており注意を要する。第5ブロックでは剥片等の分布は希薄で活発な石器製作活動を示す痕跡はないため、他ブロックを主体とする接合資料の一部が搬入されている可能性が高い。

### 第6ブロック

非常に濃密な剥片等の分布がみられ、活発な石器製作活動が予測されるブロックである。接合資料も多く、34個体を掲載する。接合資料からは、おおむね2kg程度の礫を搬入し、粗い整形剥離を含む石核整形及び目的的剥片剥離を行っている様相が看取できる。石材の質が悪く、整形剥離段階で割裂しそのまま放棄された資料も少なくない。

### 第6ブロック第13遺物集中部

目的的剥片剥離段階の接合資料3点を抽出した。

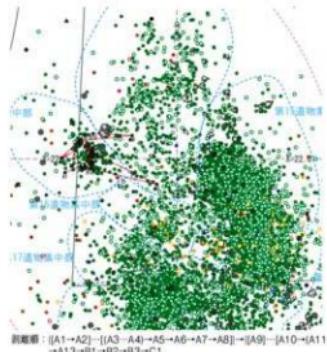
いずれも比較的小型の接合資料で、小型礫素材のものが1点、剥片素材の資料が2点である。

### 接合資料No43（第206図）

やや小型の分割礫を素材とし、平坦な節理面を打面として同一方向から連続的に縱長剥片を剥離している。剥離された目的的剥片の主軸長は30mm~35mm程度である。時折やや大きめの剥離を入れながら剥離を進めているが、石核径が5cm前後になった段階で一度打面を反転して整形剥離を加えている。その後再び打面を反転して数枚の目的的剥片を剥離し、再度打面を反転して整形剥離を試みているが、最終的には調整に失敗し石核を放棄している。

### 接合資料No44（第207図）

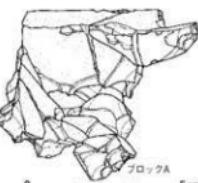
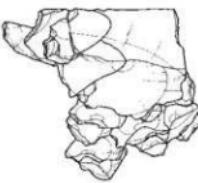
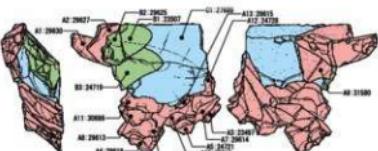
主軸長5cm程の剥片を素材とする石核接合資料である。素材剥片の主要剥離面を打面とし、素材剥片の端部側から剥離を進行させている。基本的には素材の主要剥離面を打面として剥片剥離が行われるが、最終段階では打面と作業面を反転して数枚の調整剥離を施している。作業面は石核の周縁を全周しないものの、残核形状は扁平な亀甲状を呈する。



測量: [A1-A2]→[A3-A4-A5-A6-A7-A8]→[A9]→[A10-A11-A12])  
→A13-A14→B2-B3-C1

組合No	面積	厚さ	面積	面積	面積	面積	面積	面積
A1	29.630	0.06	C13	S3	21.888	27.062	143.410	X 剥片
A2	29.627	0.06	C13	S3	21.941	27.210	143.401	X 剥片
A3	23.497	0.06	C14	S3	21.793	27.830	143.478	X 剥片
A4	29.618	0.06	C13	S3	22.058	27.291	143.391	X 剥片
A5	24.721	0.06	C13	S3	22.161	27.209	143.411	X 剥片
A6	34.073	0.06	C13	S3	22.008	27.053	143.374	X 剥片
A7	29.614	0.06	C13	S3	22.068	27.170	143.400	X 剥片
A8	29.613	0.06	C13	S3	22.145	27.186	143.403	X 剥片
A9	31.580	0.06	C14	S3	22.192	27.633	143.396	X 剥片
A10	29.611	0.06	C13	S3	22.207	27.313	143.392	X 剥片
A11	30.686	0.06	C13	S3	22.197	27.241	143.399	X 剥片
A12	24.728	0.06	C13	S3	21.922	27.268	143.458	X 剥片
A13	29.615	0.06	C13	S3	22.126	27.262	143.394	X 剥片
B1	23.507	0.06	C13	S3	22.086	27.310	143.507	X 剥片
B2	29.625	0.06	C13	S3	21.953	27.242	143.399	X 剥片
B3	24.719	0.06	C13	S3	22.073	27.305	143.419	X 剥片
C1	27.699	0.06	C13	CO	21.971	27.304	143.389	X 石片

27.4 第16208

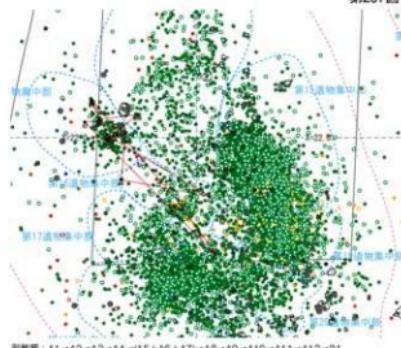


0 (2 : 3) 5cm ブロックA



ブロックA

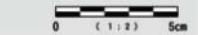
0 (1 : 2) 5cm



測量: A1-A2-A3-A4-(A5+A6+A7)-A8-A9-A10-A11-A12-B1

組合No	面積	厚さ	面積	面積	面積	面積	面積	
A1	30.690	0.06	C16	S3	22.138	27.198	143.393	X 剥片
A2	21.641	0.06	C13	S3	22.128	27.076	143.592	X 剥片
A3	36.213	0.06	C16	S3	21.063	26.150	143.428	X 剥片
A4	51.407	0.06	C16	S3	21.442	27.881	143.344	X 剥片
A5	32.320	0.06	C13	S3	22.308	27.143	143.383	X 剥片
A6	31.370	0.06	C13	S3	22.019	27.267	143.392	X 剥片
A7	25.396	0.06	C16	S3	21.519	26.109	143.431	X 剥片
A8	22.496	0.06	C16	S3	21.657	27.383	143.518	X 剥片
A9	30.702	0.06	C13	S3	22.040	27.422	143.391	X 剥片
A10	29.624	0.06	C13	S3	21.953	27.263	143.401	X 剥片
A11	34.076	0.06	C14	S3	22.189	27.517	143.376	X 剥片
A12	31.559	0.06	C13	S3	22.152	27.210	143.390	X 剥片
B1	41.746	0.06	C13	CO	22.295	27.139	143.324	X 石片

24.4 第16208



0 (2 : 3) 5cm ブロックA

0 (1 : 2) 5cm